

南海沿線活性化のヒント

～ 地産地消の果たす役割 ～

2015年7月28日

株式会社 日本総合研究所 主席研究員

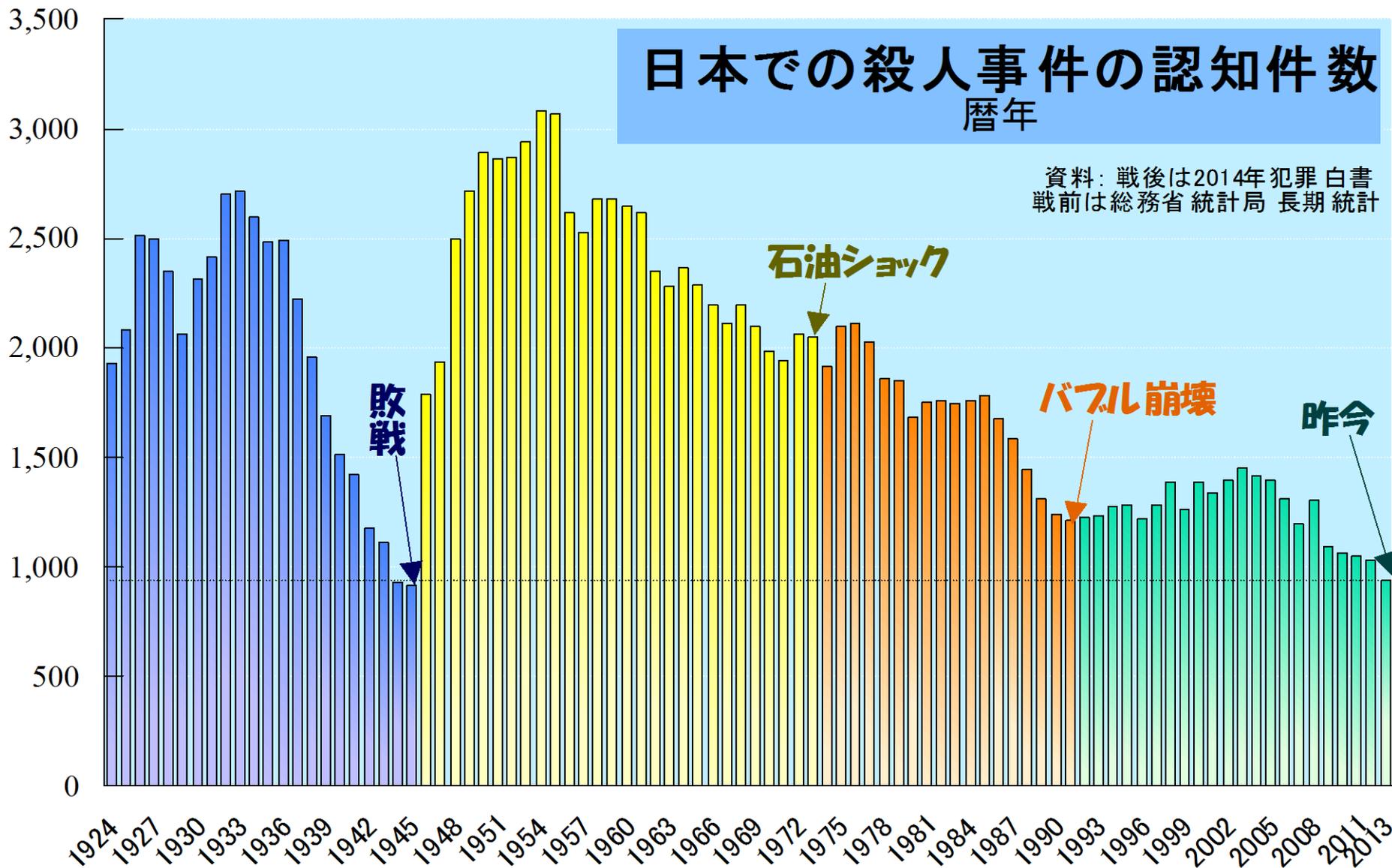
株式会社 日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問

もたに
藻谷浩介



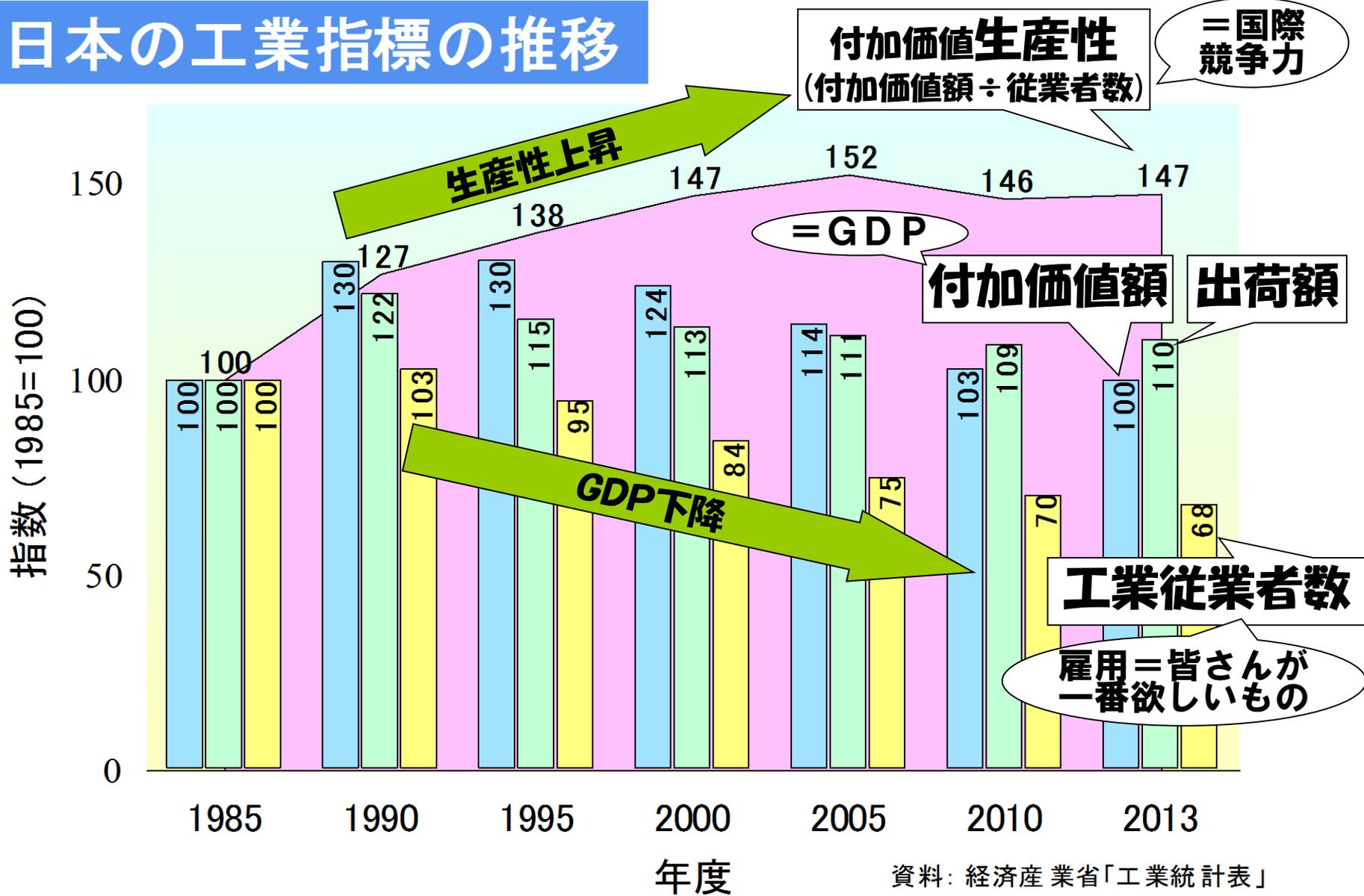
「イメージ」や「空気」は事実と違う

- 常に事実を数字で確認しないと間違える



経済モデルだけでは現実は見えない

日本の工業指標の推移

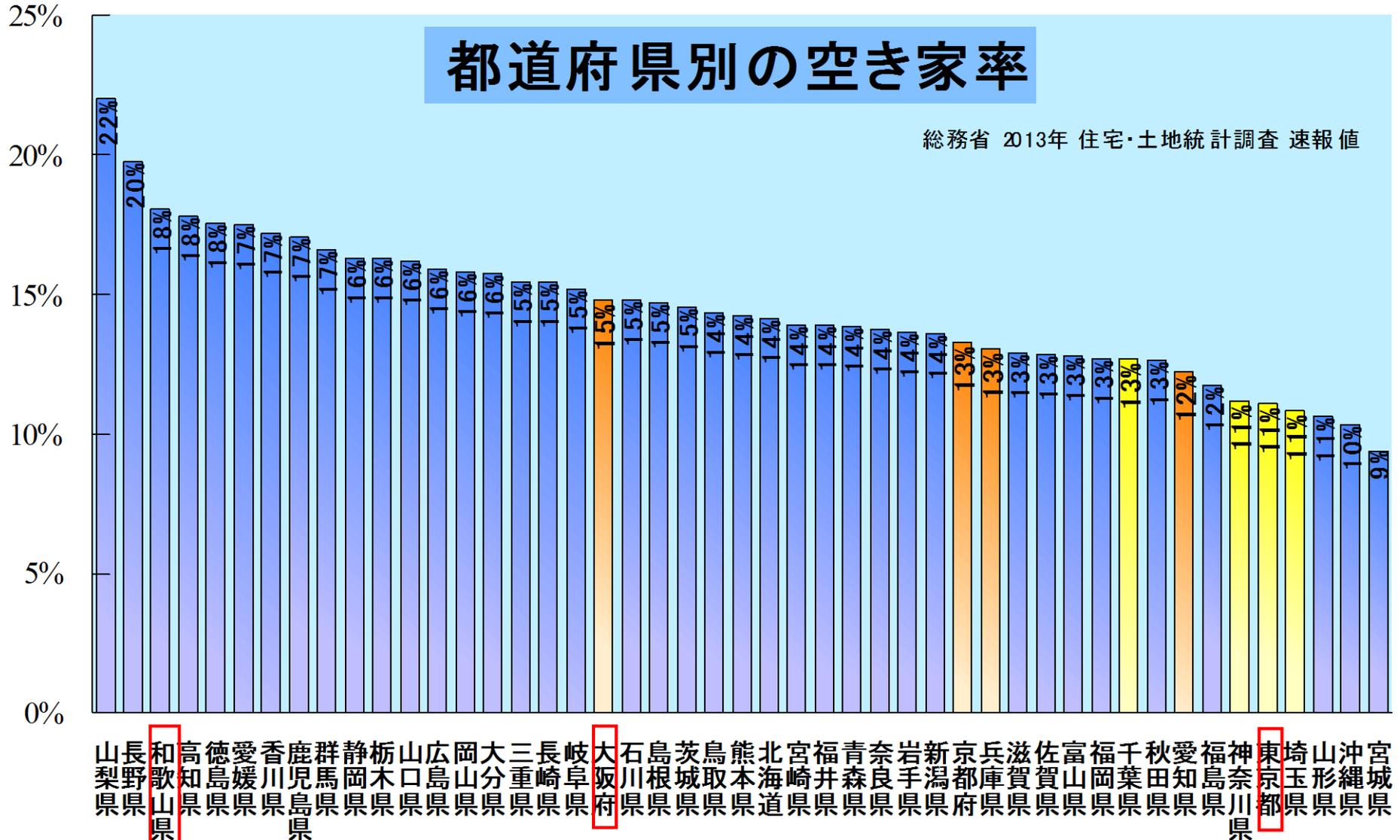


資料: 経済産業省「工業統計表」

日本の家の8軒に1軒が空き家

都道府県別の空き家率

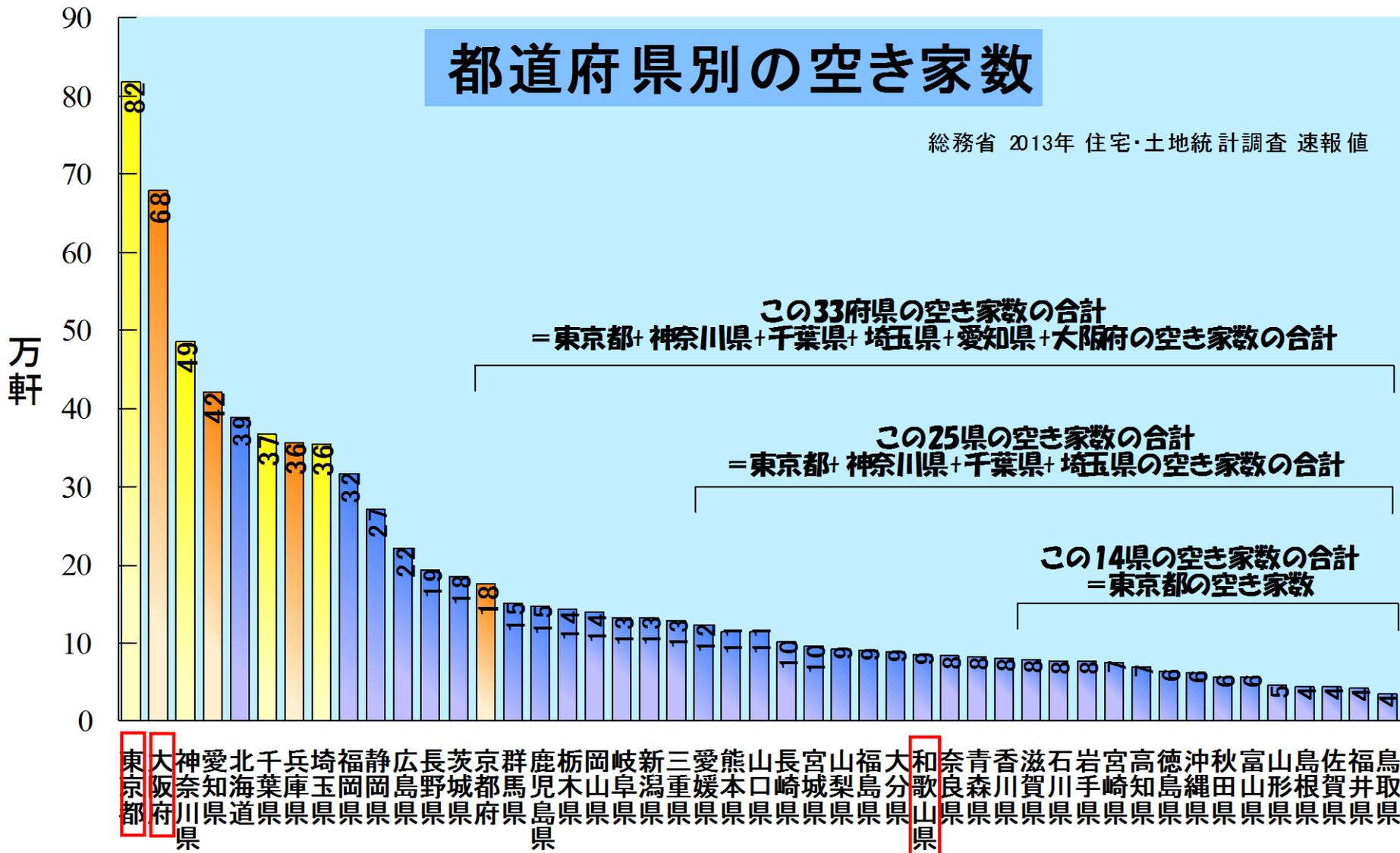
総務省 2013年 住宅・土地統計調査 速報値



空き家が多いのは大都市圏

都道府県別の空き家数

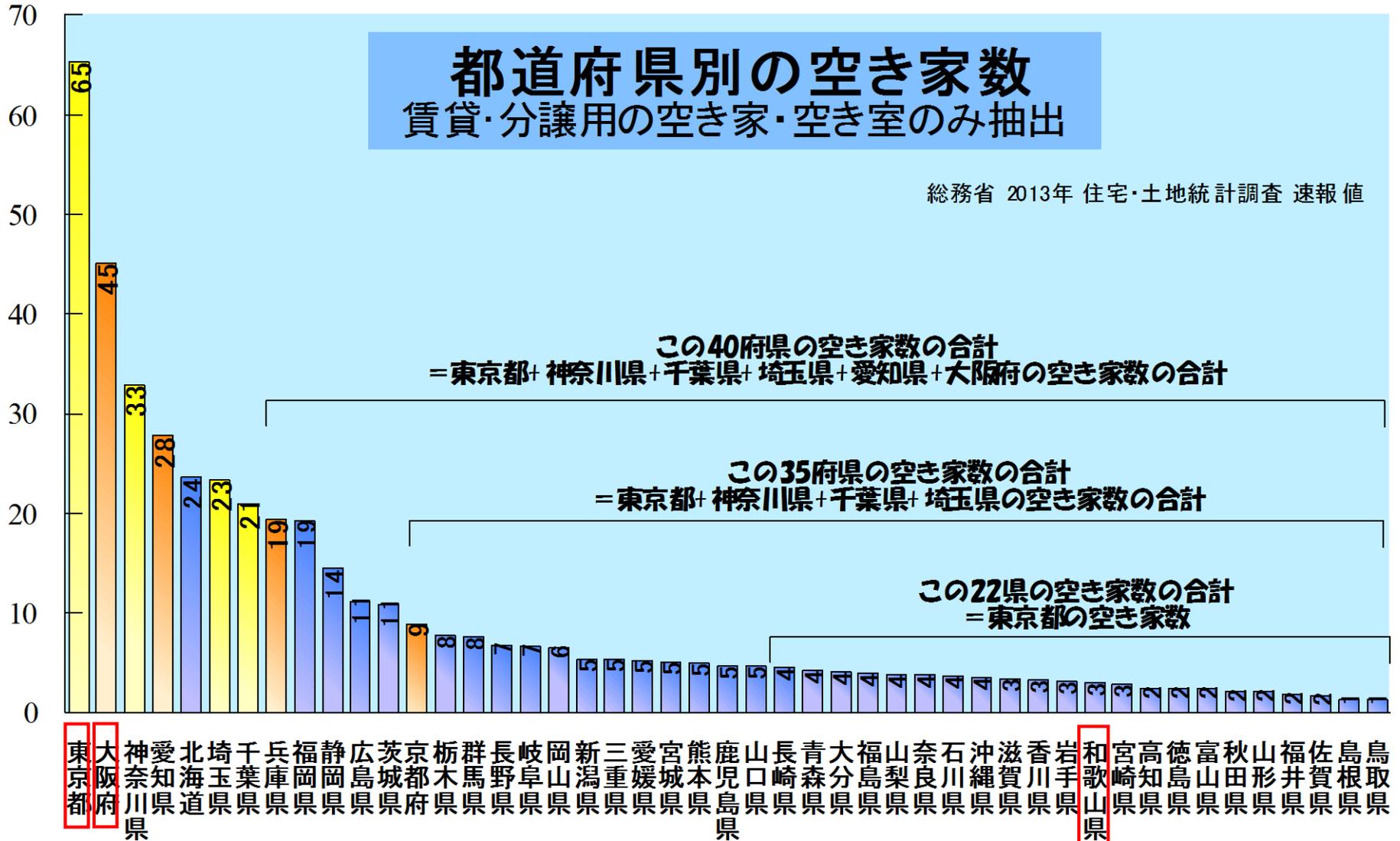
総務省 2013年 住宅・土地統計調査 速報値



買い手・借り手がない空き家は 圧倒的に大都市圏に集中

都道府県別の空き家数 賃貸・分譲用の空き家・空き室のみ抽出

総務省 2013年 住宅・土地統計調査 速報値



日本の足を引っ張る限界とは？

- ？ 新興国との**国際競争**で劣勢に立っている。
- ？ 生産性が伸びず**経済成長率**が低い。
- ？ **デフレ**が続き**物価**が上がらず**景気**が悪い。

日本の足を引っ張る限界とは？

？ 新興国は日本を脅かしている。

「もっとマネーを稼げば問題は解決する」

「マネーの世界で負けたらもうおしまいだ」

！ というのは、似非科学由来の強迫性妄想だ。

妄想に囚われる人の発想法：

- ① この世はお金と資源の奪い合いだ！ 奪い合いに勝てないと食べ物にされる！ という強迫観念がある
- ② 自分より先に競争に敗けて食べ物にされる人や国を見て、同情せずむしろ安心する！（→格差も容認）
- ③ 不安でたまらずお金と不動産にしがみつく

日本の足を引っ張る限界とは？

- ？ 新興国との**国際競争**で劣勢に立っている。
- ？ 生産性が伸びず**経済成長率**が低い。
- ？ デフレが続き**物価**が上がらず**景気**が悪い。

ヒト

子供の減少で社会の縮小が続く。

モノ

遊休不動産・放置山林が急増。

カネ

化石燃料の使い捨てに限界が来た。

情報

貯金が消費に回らず**循環**しない！

客観的な**事実認識**が共有されない。

日本の足を引っ張る限界とは？

定義のあいまいな言葉を持ち出して
何でも「マネー」に換算して不安を煽る話は
まったく問題の本質を突いていない。

気が悪い。

問題の本質は

ヒト・モノ・カネ・情報の循環・再生の不全

- ⑤ 正しい統計情報があるのに、上から下まで無関心
- ④ 空家や遊休農地・山林を、無気力所有者が抱え込む
- ③ 再生できない化石燃料・核燃料に重度に依存
- ② 貯金が「内臓脂肪化」して世間を循環しない
- ① 子供の減少→人口の循環・再生の失敗

情報

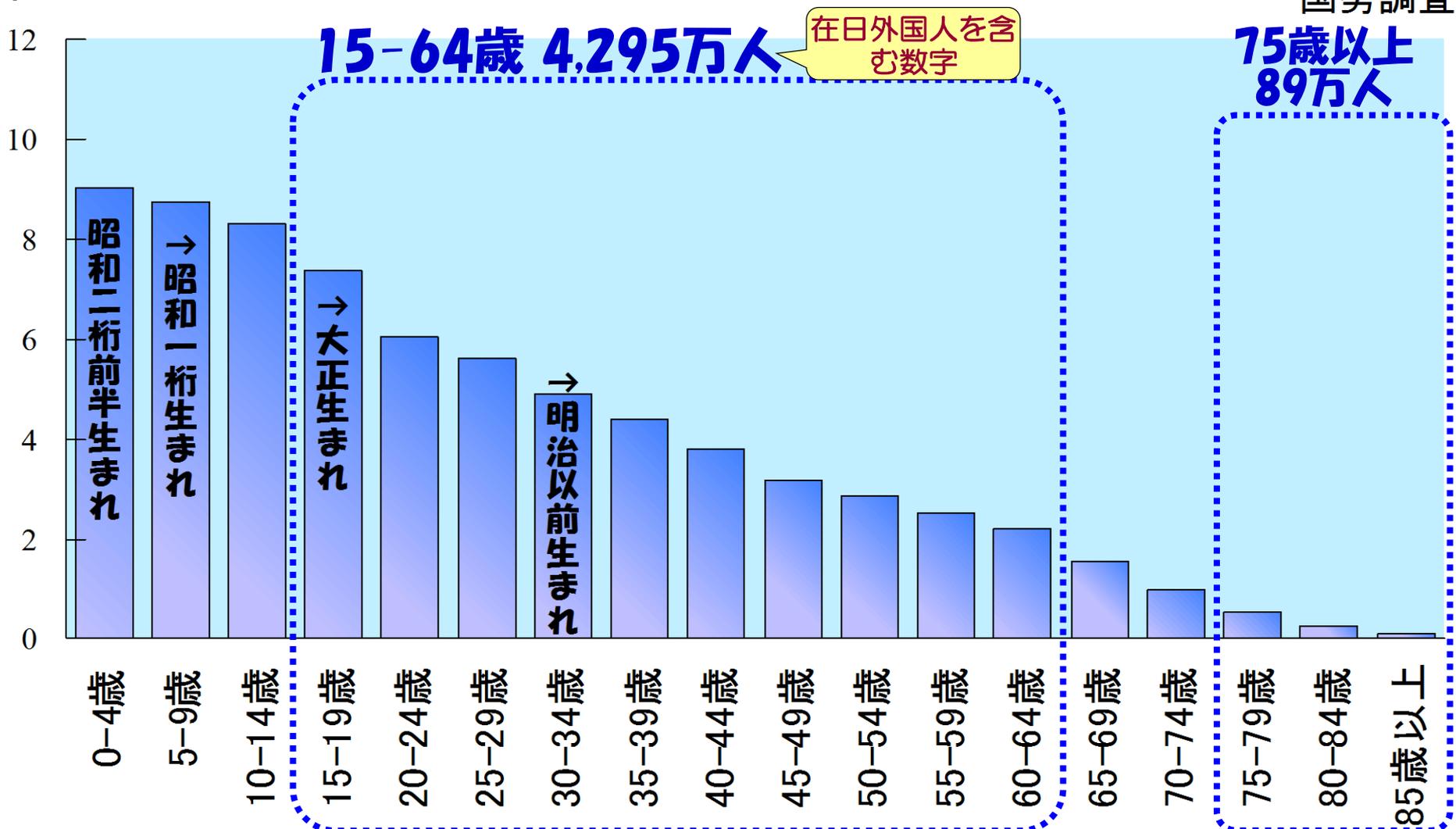
客観的な情報が共有されない。

日米開戦前夜の日本在住者



何歳の人口が多かったのか：1940 (S15) = 70年前

百万人



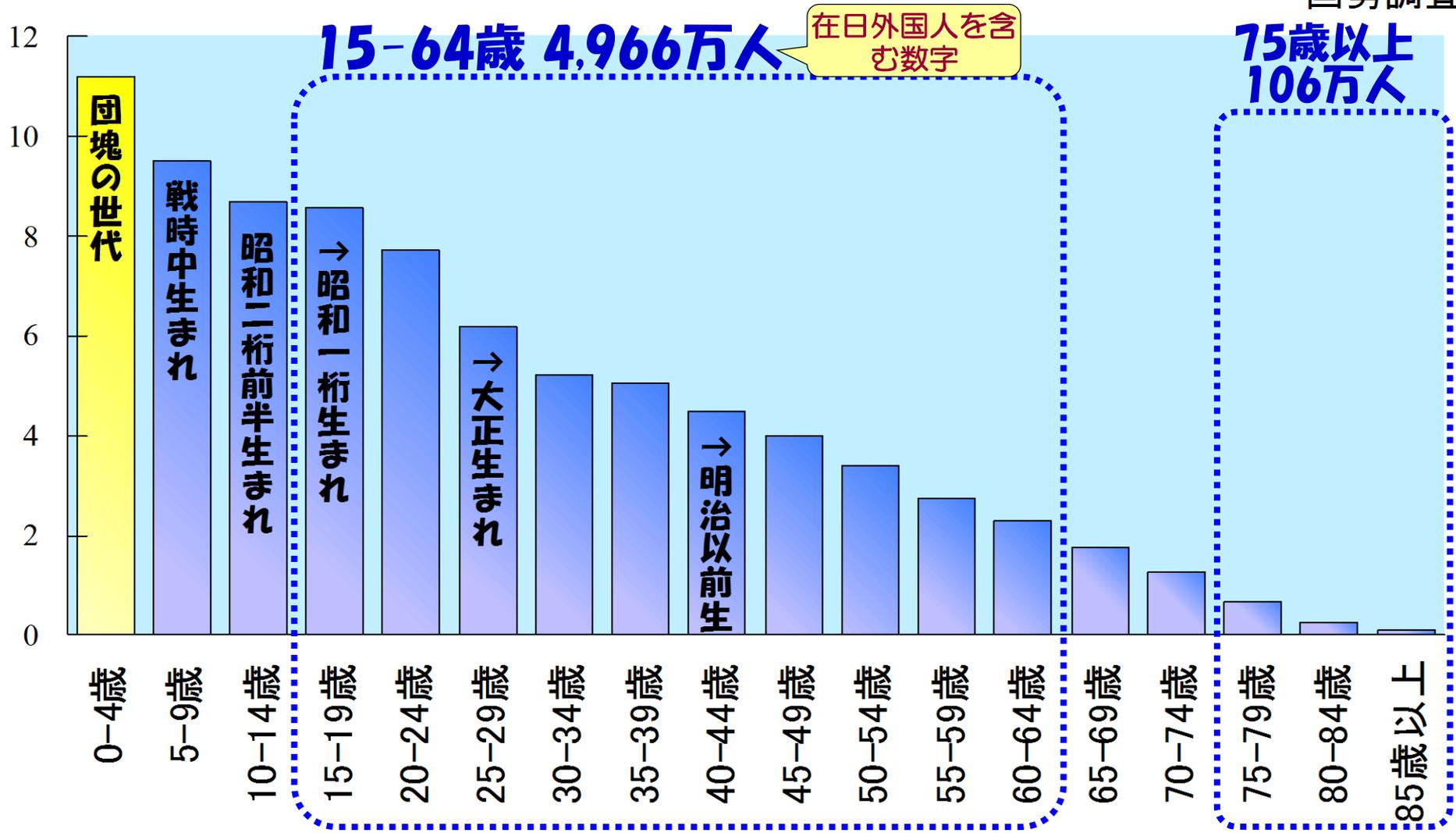
戦後復興の頃の日本在住者



何歳の人口が多かったのか：1950 (S25) = 60年前

百万人

国勢調査



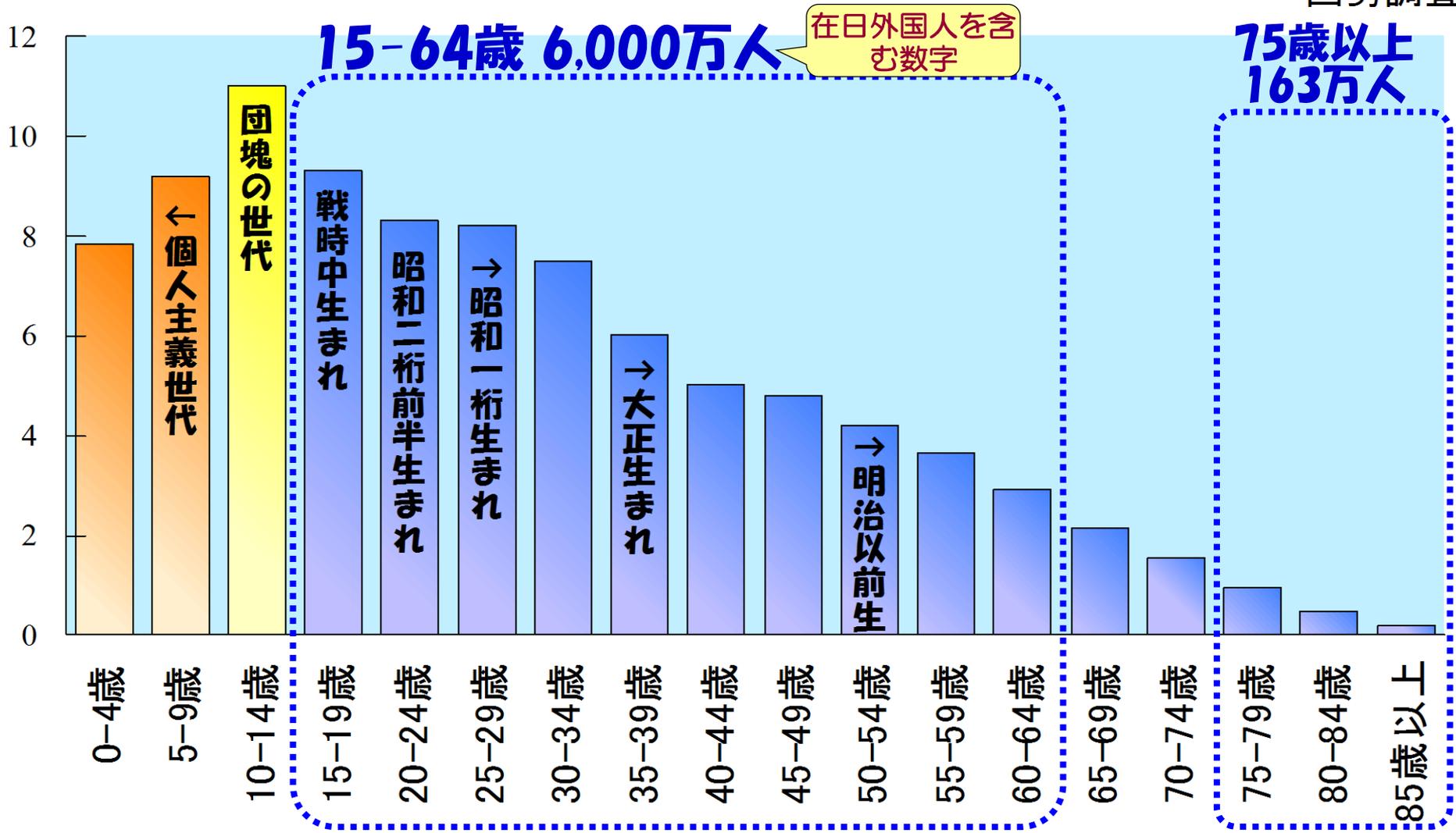
所得倍増計画の頃の日本在住者



何歳の人口が多かったのか：1960 (S35) = 50年前

百万人

国勢調査



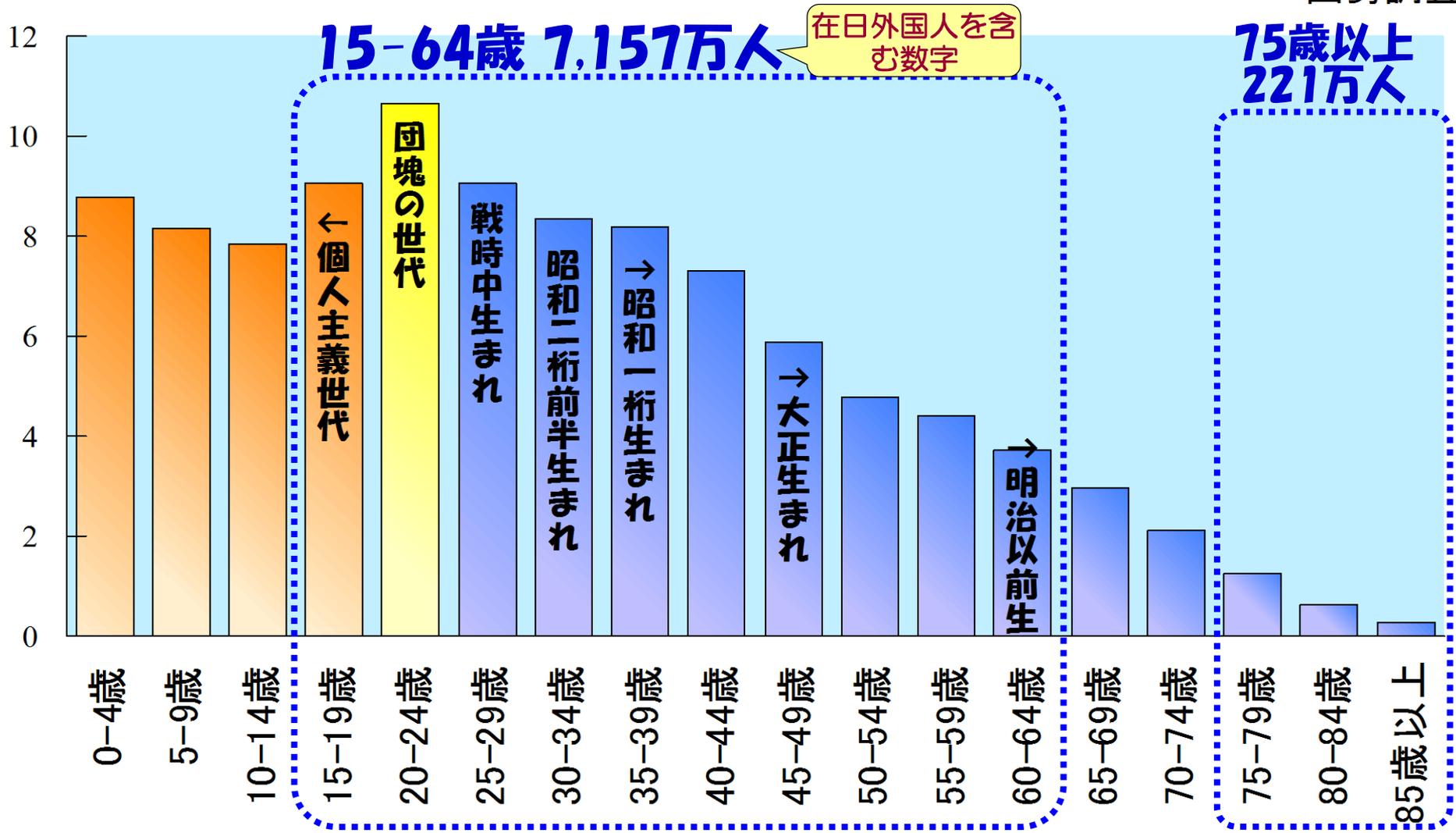
大阪万博の頃の日本在住者



何歳の人口が多かったのか：1970 (S45) = 40年前

百万人

国勢調査

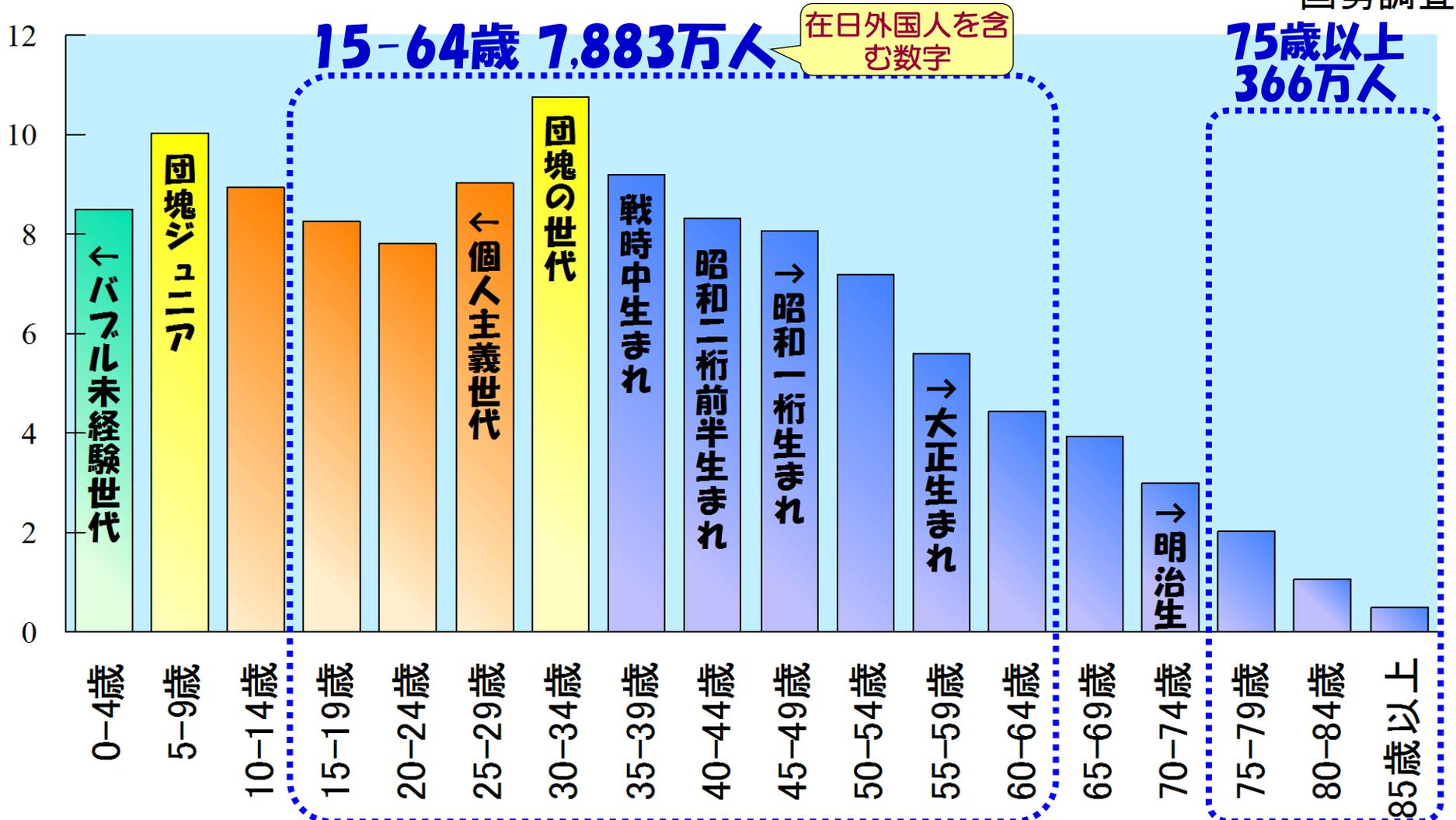


安定成長移行期の日本在住者



何歳の人口が多かったのか：1980 (S55) = 30年前

百万人



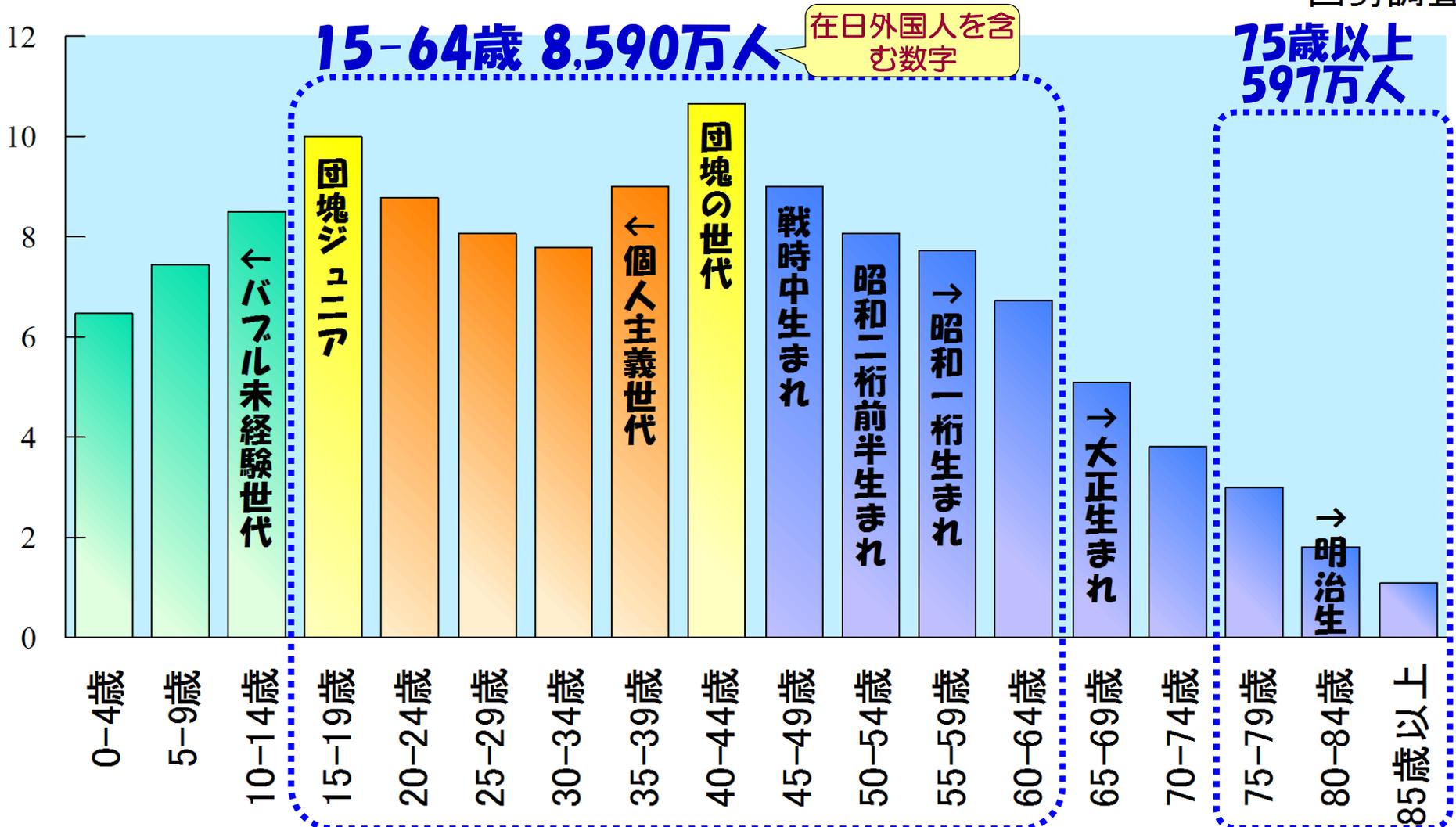
バブル最盛期の日本在住者



何歳の人口が多かったのか：1990 (H2) = 20年前

百万人

国勢調査

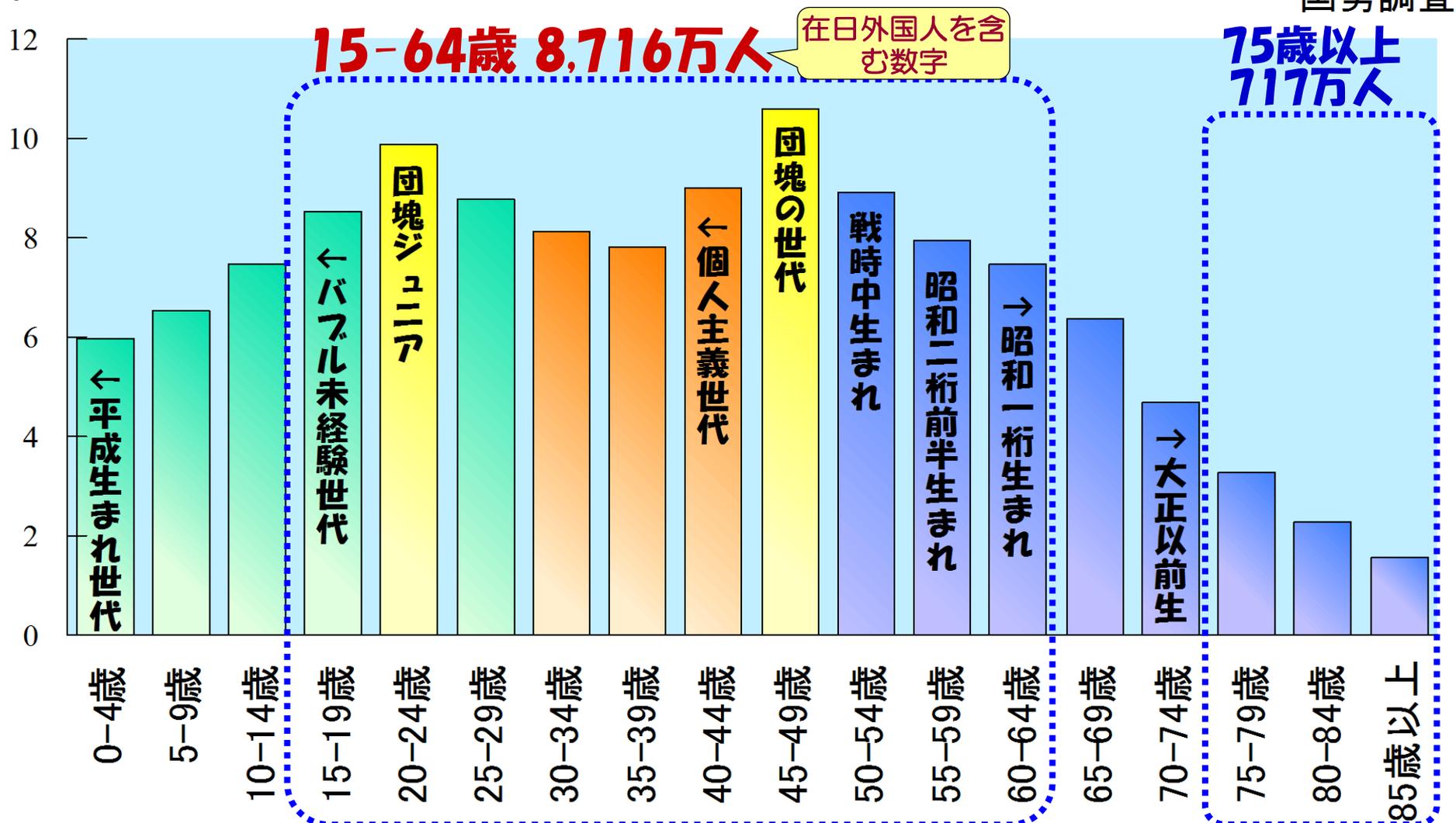


阪神大震災の頃の日本在住者



何歳の人口が多かったのか：1995 (H7) = 15年前

百万人



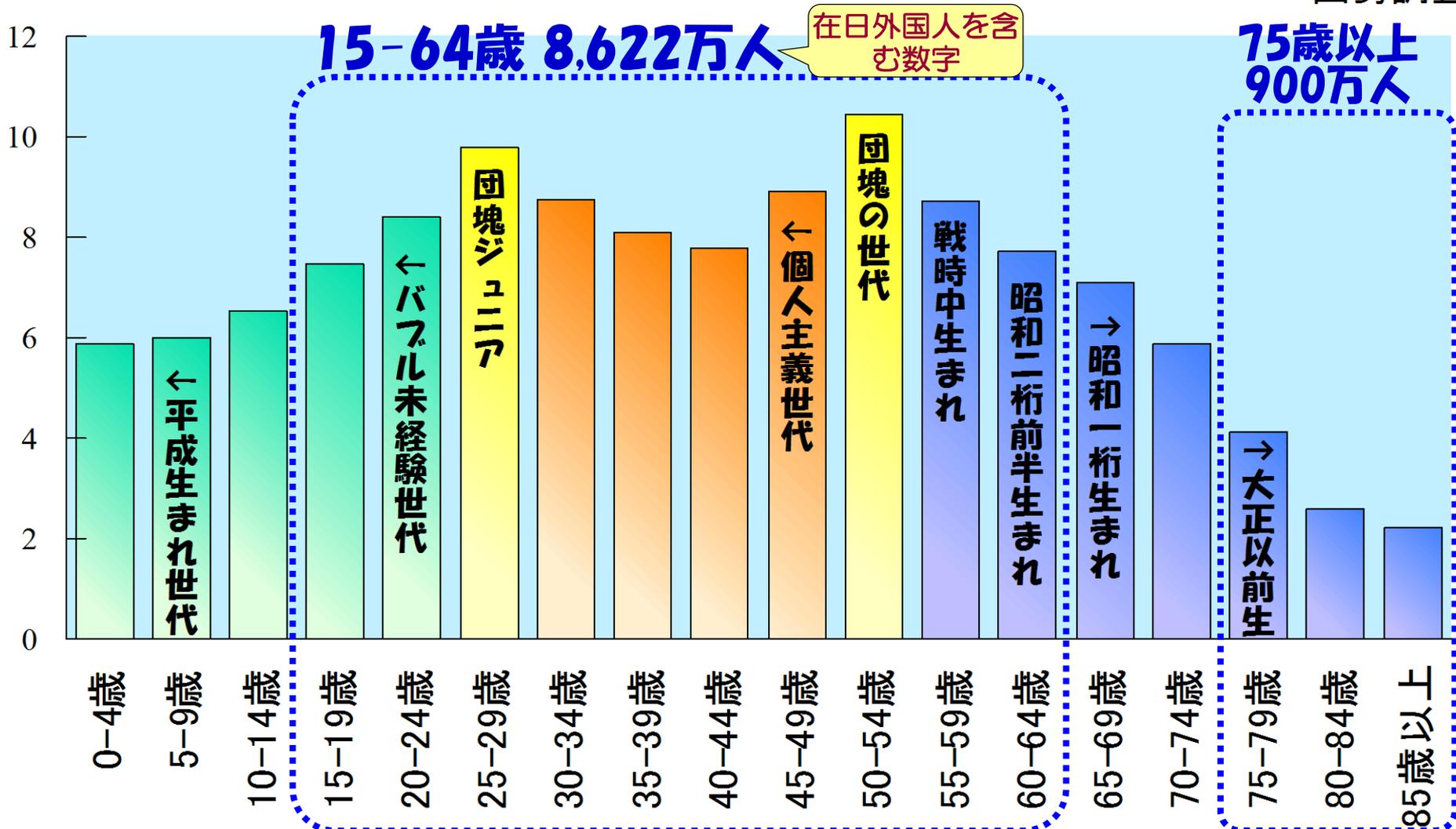
2000年問題の頃の日本在住者



何歳の人口が多かったのか：2000 (H12) = 10年前

百万人

国勢調査



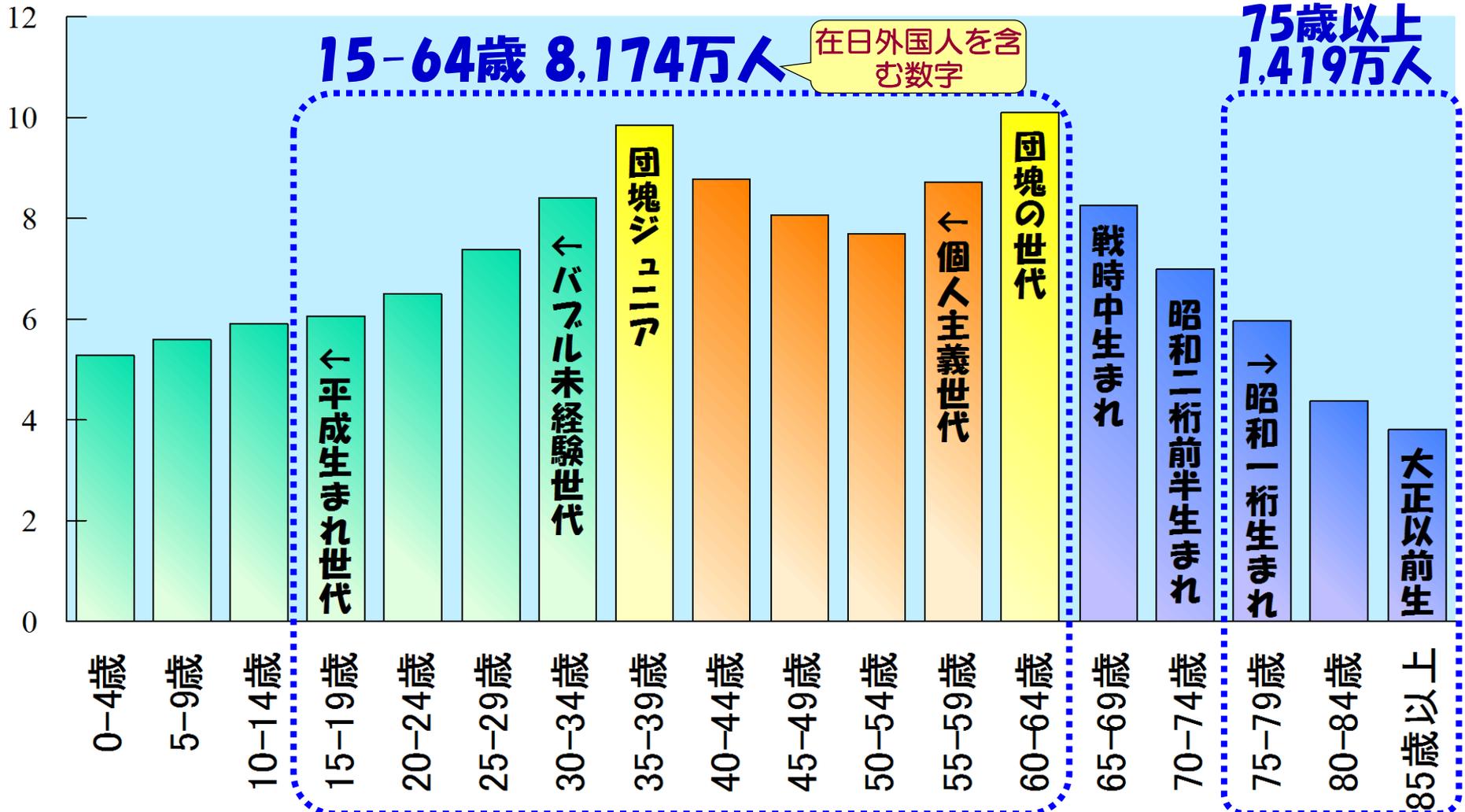
現在の日本在住者



何歳の人口が多いのか:2010=現在

百万人

国勢調査結果を国立社会保障・人口問題研究所が補正



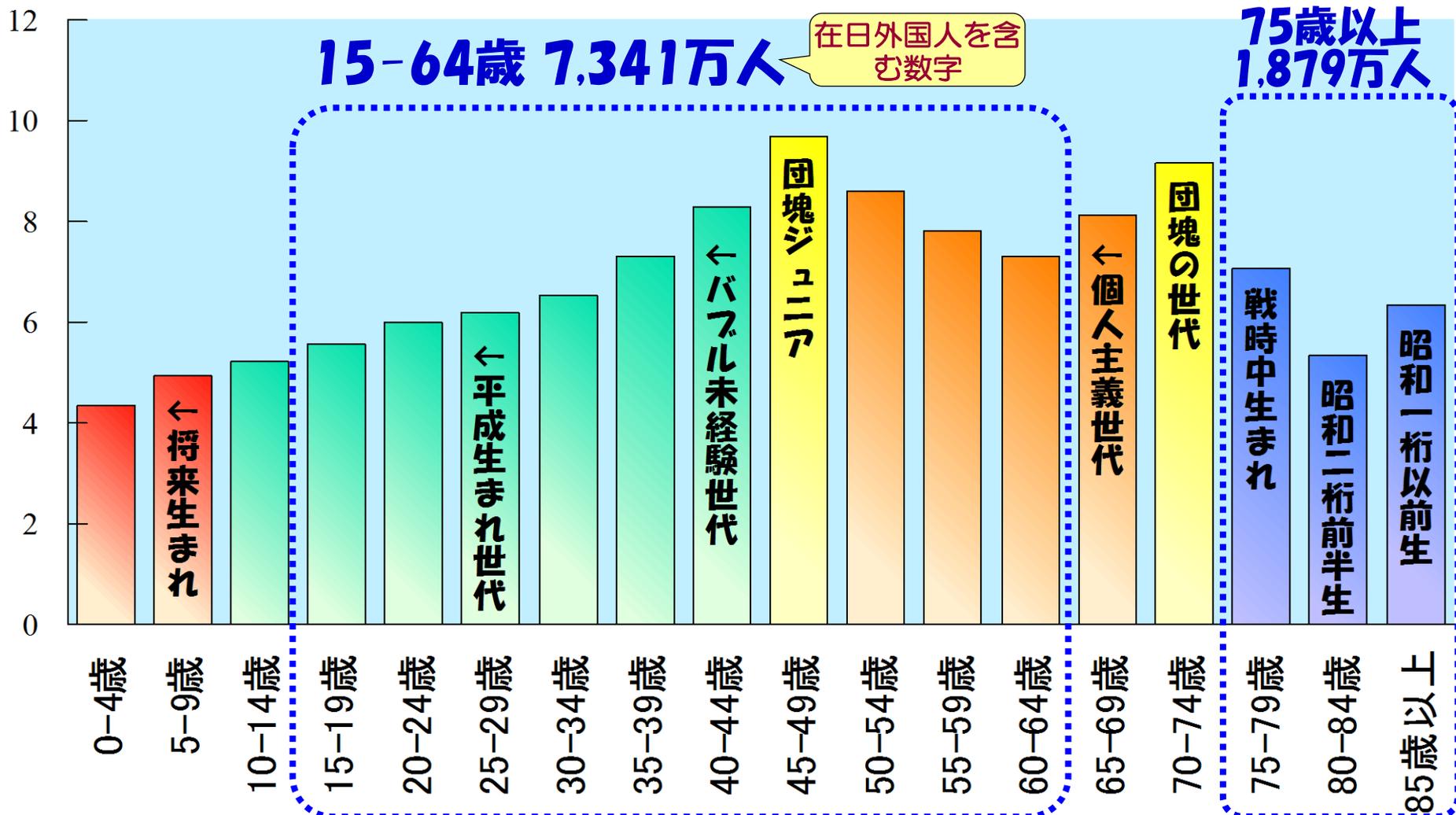
10年後の日本在住者



何歳の人口が多くなるのか：2020 = 10年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改訂）



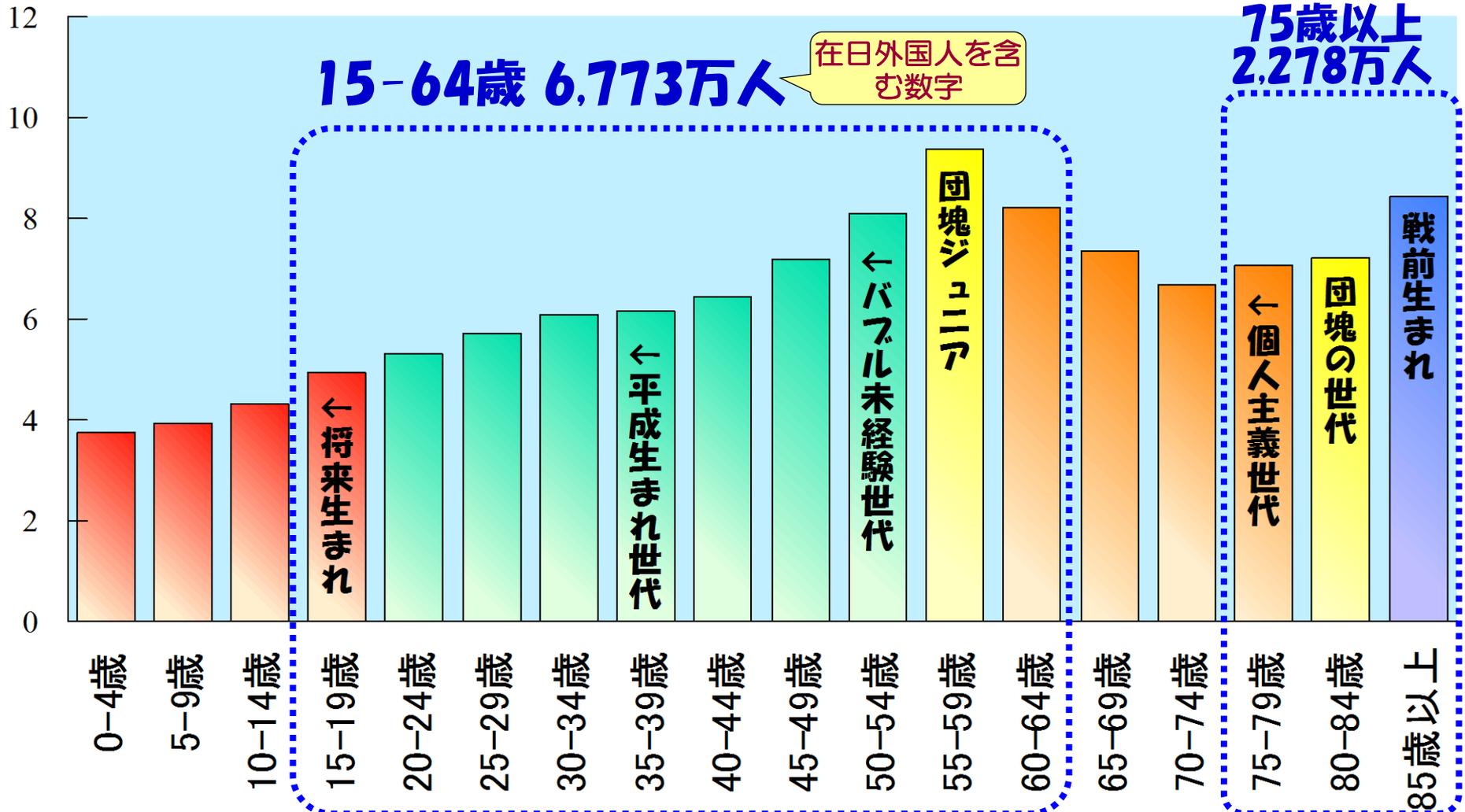
20年後の日本在住者



何歳の人口が多くなるのか：2030＝20年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改訂）



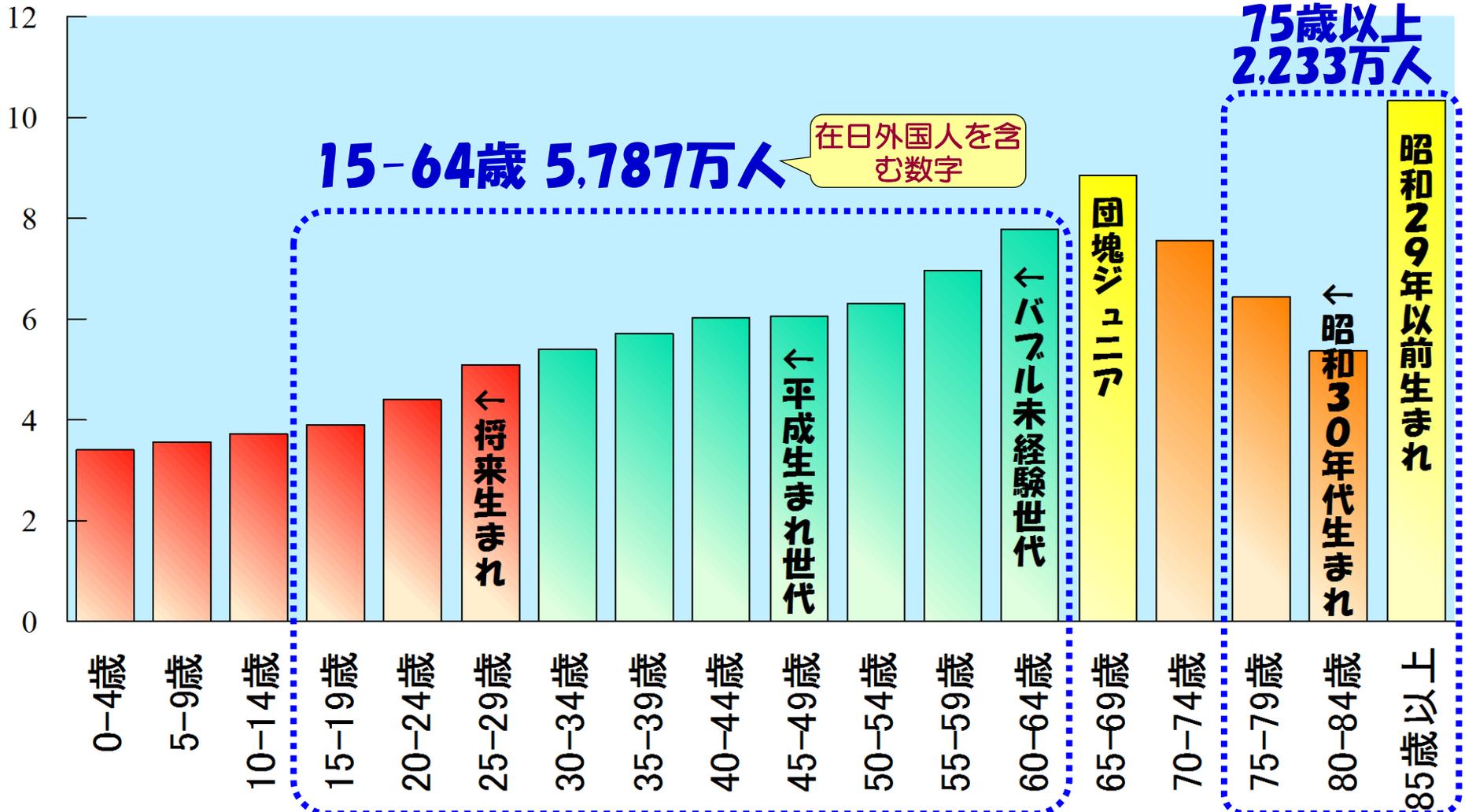
30年後の日本在住者



何歳の人口が多くなるのか：2040＝30年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改訂）



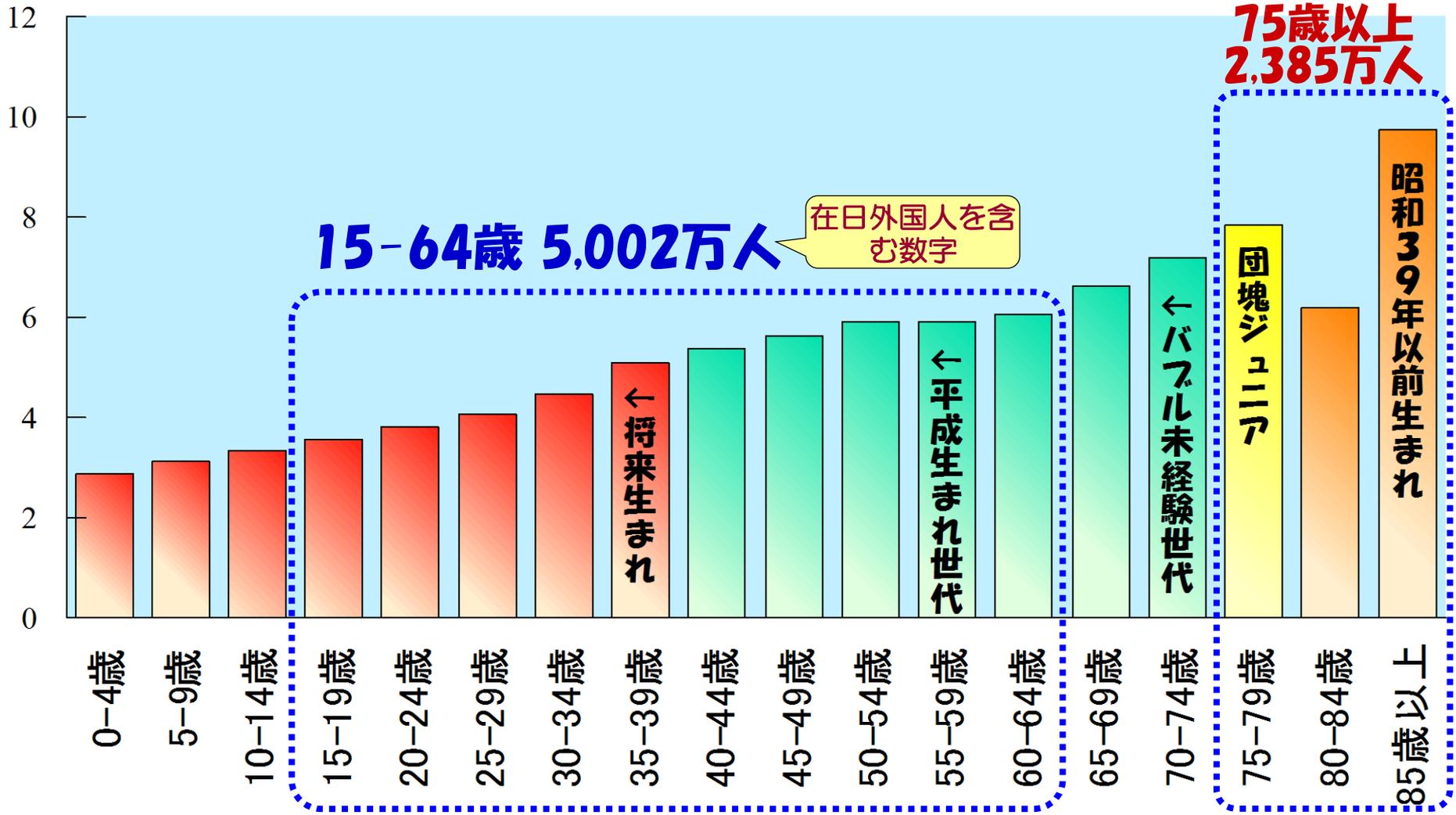
40年後の日本在住者



何歳の人口が多くなるのか：2050＝40年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改訂）



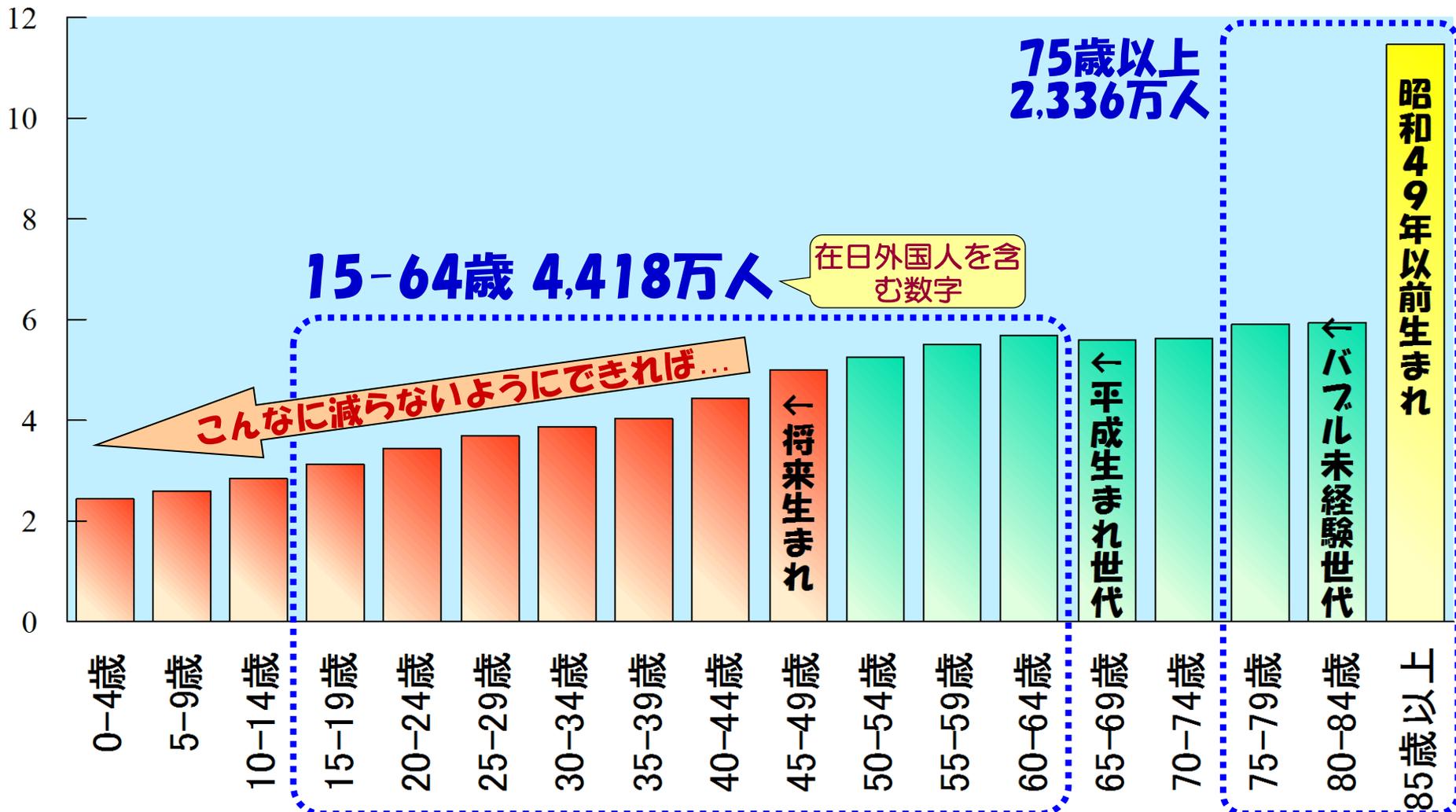
50年後の日本在住者



何歳の人口が多くなるのか：2060＝50年後

百万人

国立社会保障・人口問題研究所中位推計（2012年改訂）

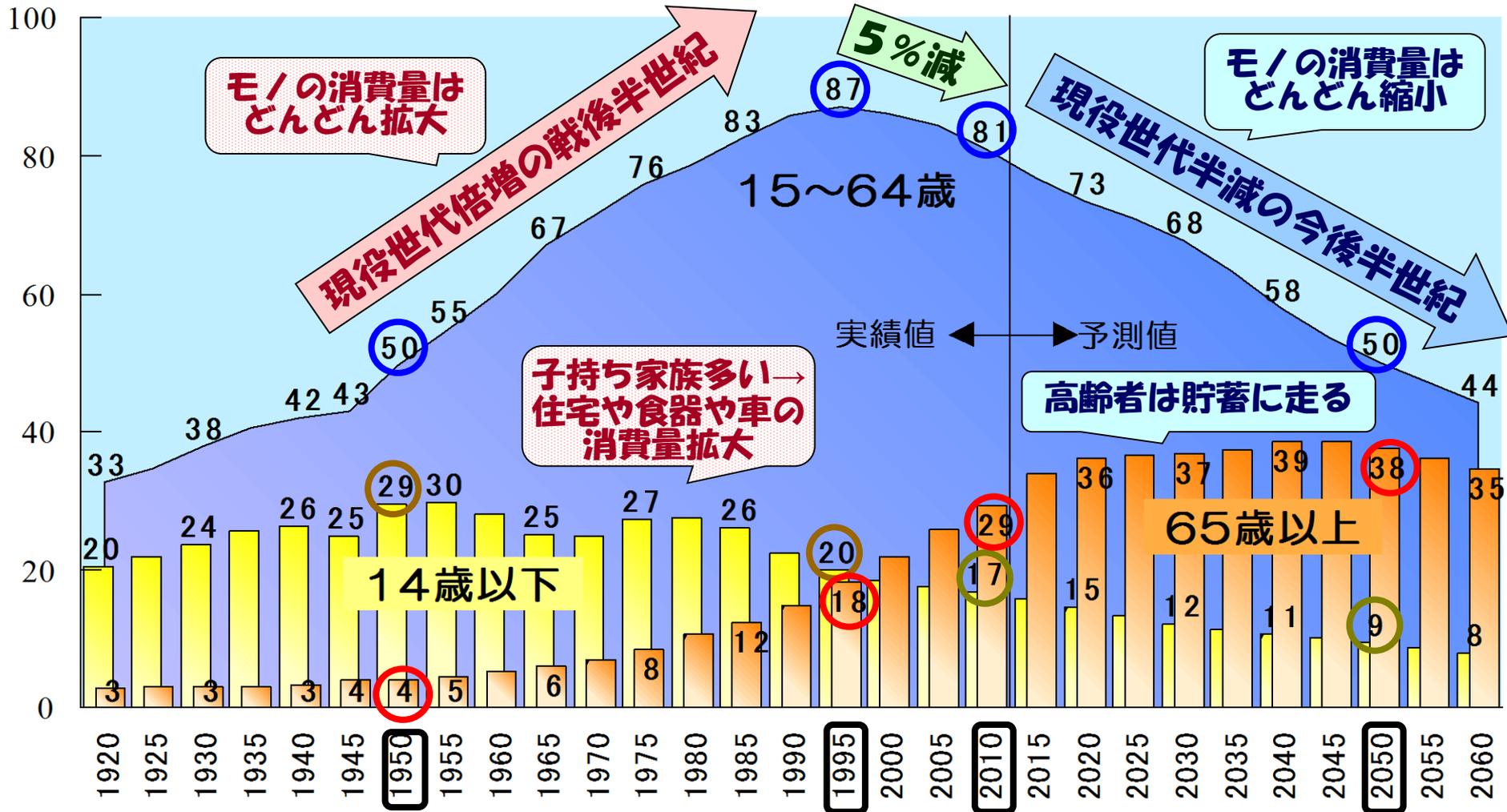


逆落としに減っていく現役世代

年齢階層別にみた日本の在住者数（1920-2060）

百万人

資料：～2010年は 国勢調査（1945・2005・2010は補正值）、2015年～は国立社会保障・人口問題研究所2012年中位推計



大阪府で今起きていること

(人口流出入を見込んだ、国立社会保障・人口問題研究所の予測)

府内在住者(外国人含む)：2010年→20年 $\Delta 21.6$ 万人

2000→2010年の +6.0万人から、減少に転じた 

100年少々で現役世代がゼロ！になるペースの、深刻な減少

0-14歳人口の増減：

2010年 117万人 → 2020年 **100万人** $\Delta 17.3$ 万人 $\Delta 15\%$

↓絶対数

↓増減

15-64歳人口の増減：

2010年 511万人 → 2020年 **518万人** $\Delta 52.5$ 万人 $\Delta 9\%$

↓絶対数

↓増減

65歳以上の人口：

2010年 198万人 → 2020年 **247万人** +48.2万人 +24%

↓絶対数

↓増減

↑その中の75歳以上の人口：

2010年 84万人 → 2020年 **130万人** +46.1万人 +55%

↓絶対数

↓増減

東京都で今起きていること

(人口流出入を見込んだ、国立社会保障・人口問題研究所の予測)

都内在住者(外国人含む)：2010年→20年 +15.6万人

2000→2010年の +110万人から、大幅なペースダウン



250年続けば現役世代がゼロ! になるペースの、不意打ちのような減少

0-14歳人口の増減:

	↓絶対数	↓増減
2010年 149万人→2020年	142万人	△6.5万人 △4%

15-64歳人口の増減:

	↓絶対数	↓増減
2010年 899万人→2020年	865万人	△34.1万人 △4%

65歳以上の人口:

	↓絶対数	↓増減
2010年 268万人→2020年	324万人	+56.2万人 +21%

↑その中の75歳以上の人口:

	↓絶対数	↓増減
2010年 123万人→2020年	171万人	+47.8万人 +39%

中華人民共和国で今起きていること

(戸籍のない人口も推計した、国際連合人口部の予測)

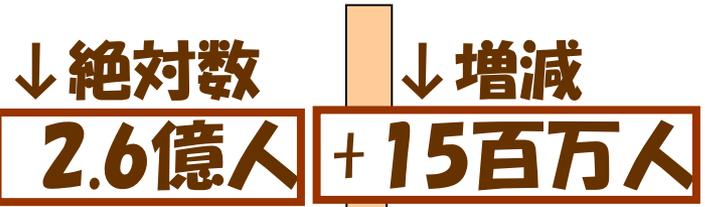
中国在住者(外国人含む) : 2010年→20年 +73百万人

17年間で日本が一個増えるというペースの増加 

2000→2010年の +135百万人から、突然の増加終了へ

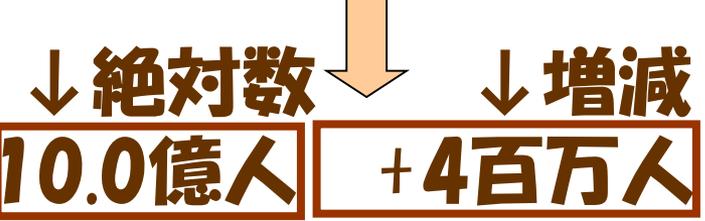
0-14歳人口の増減:

2010年	2.5億人	→	2020年	2.6億人	+15百万人	+6%
-------	-------	---	-------	-------	--------	-----



15-64歳人口の増減:

2010年	10.0億人	→	2020年	10.0億人	+4百万人	+0%
-------	--------	---	-------	--------	-------	-----



65歳以上の人口:

2010年	1.1億人	→	2020年	1.7億人	+54百万人	+48%
-------	-------	---	-------	-------	--------	------

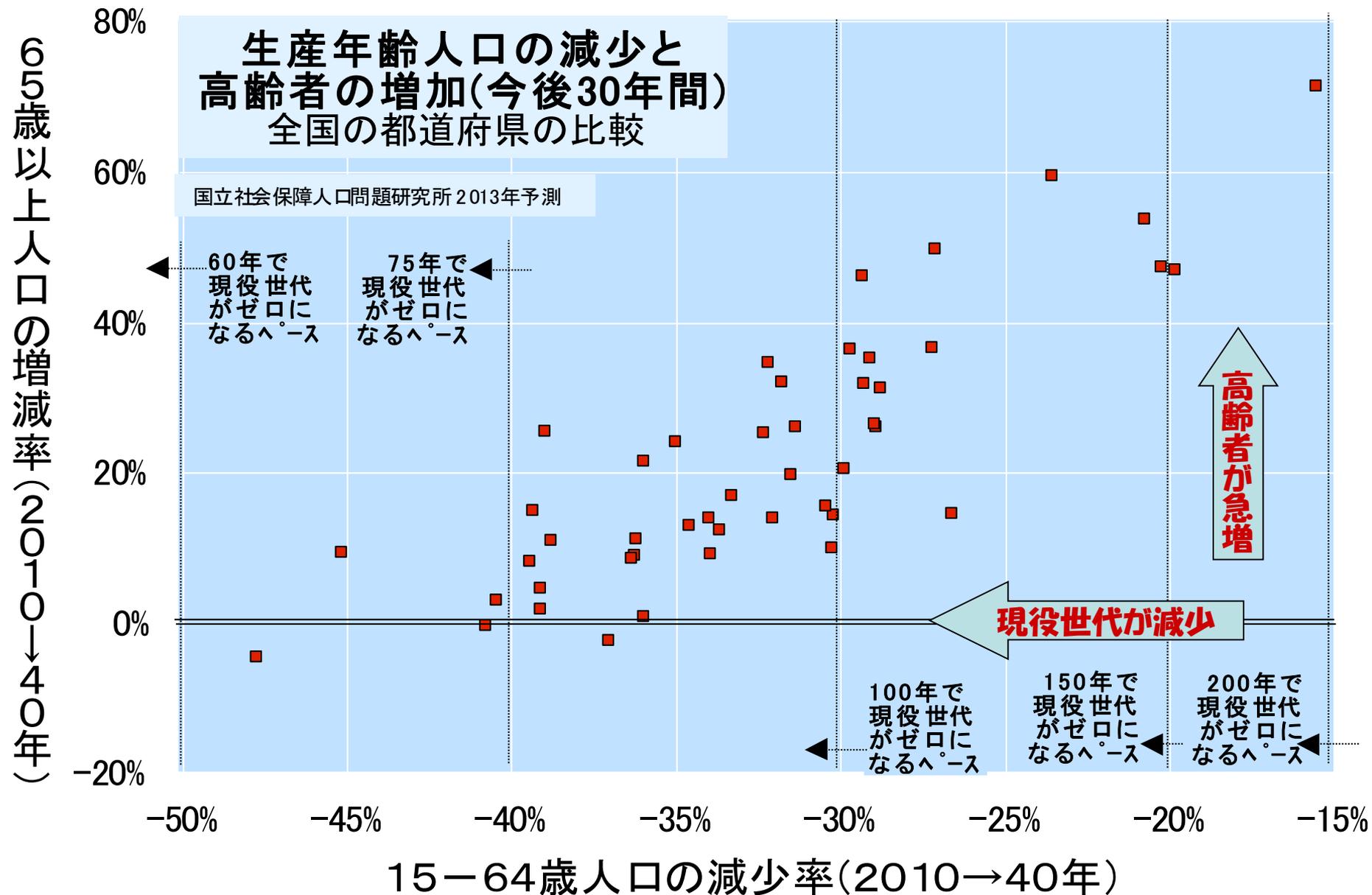


↑その中の75歳以上の人口:

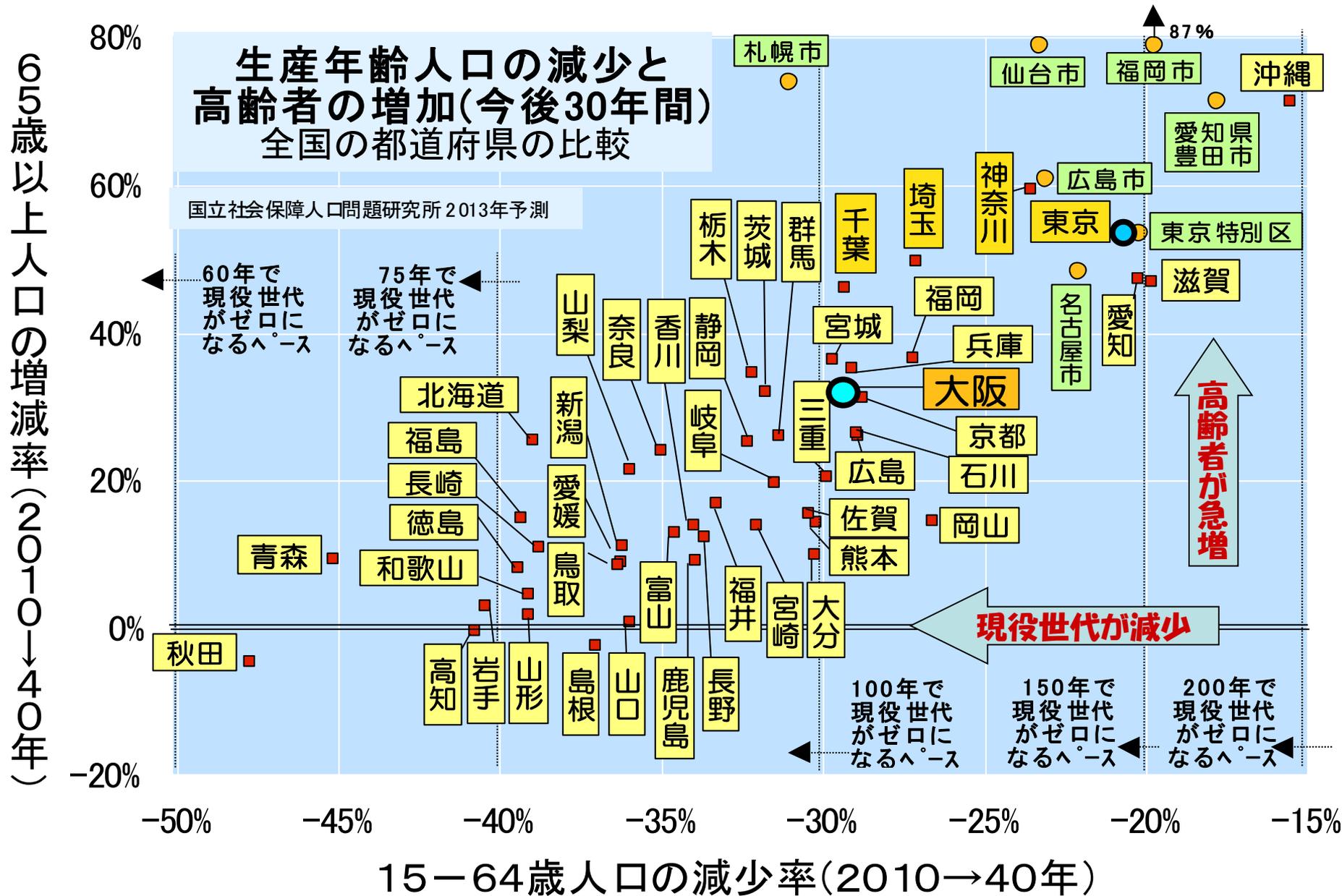
2010年	0.4億人	→	2020年	0.5億人	+10百万人	+24%
-------	-------	---	-------	-------	--------	------



現役世代の減少と高齢者の増加

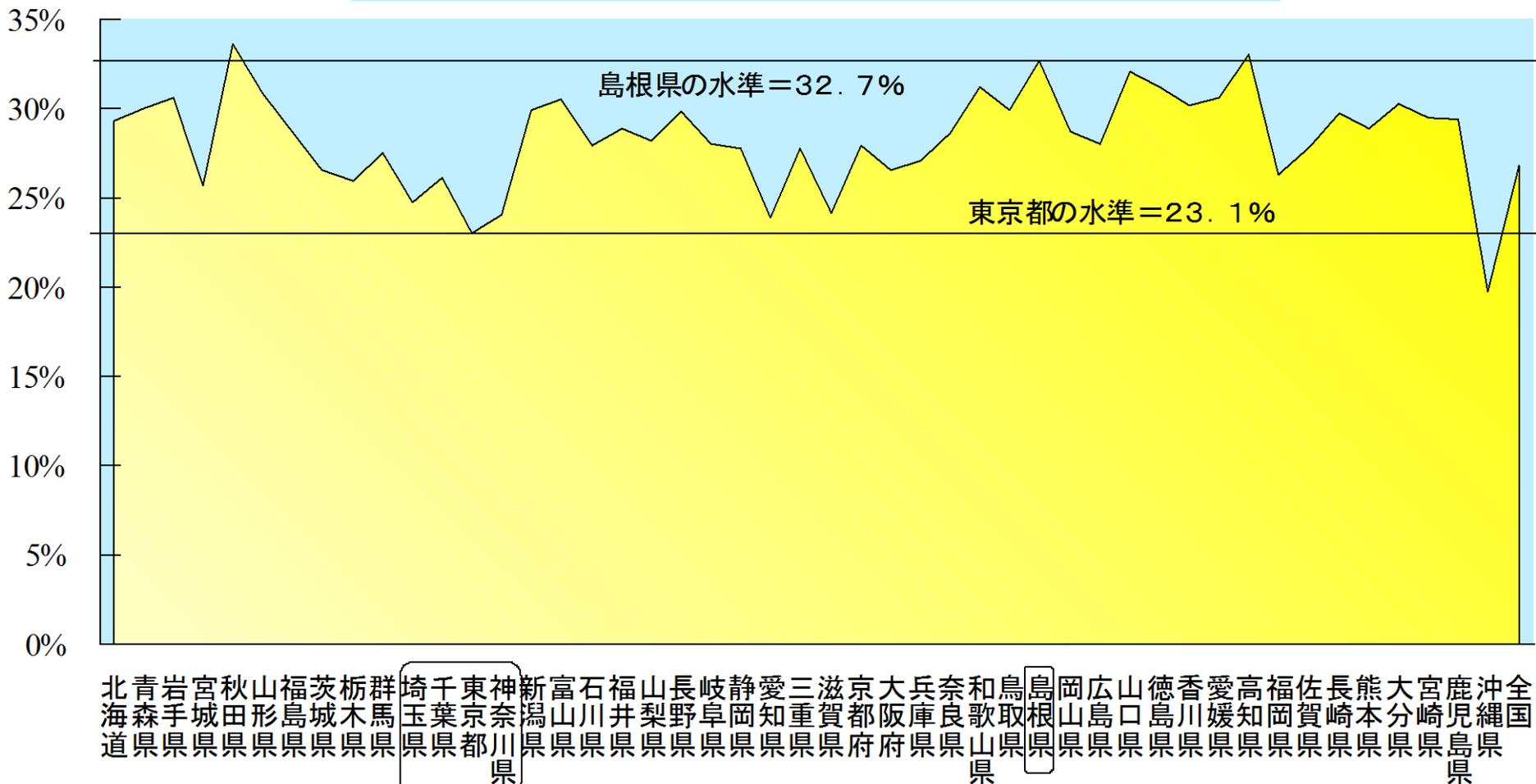


現役世代の減少と高齢者の増加



「高齢化率」にみる「地域間格差」

都道府県別の高齢化率 - 2015年

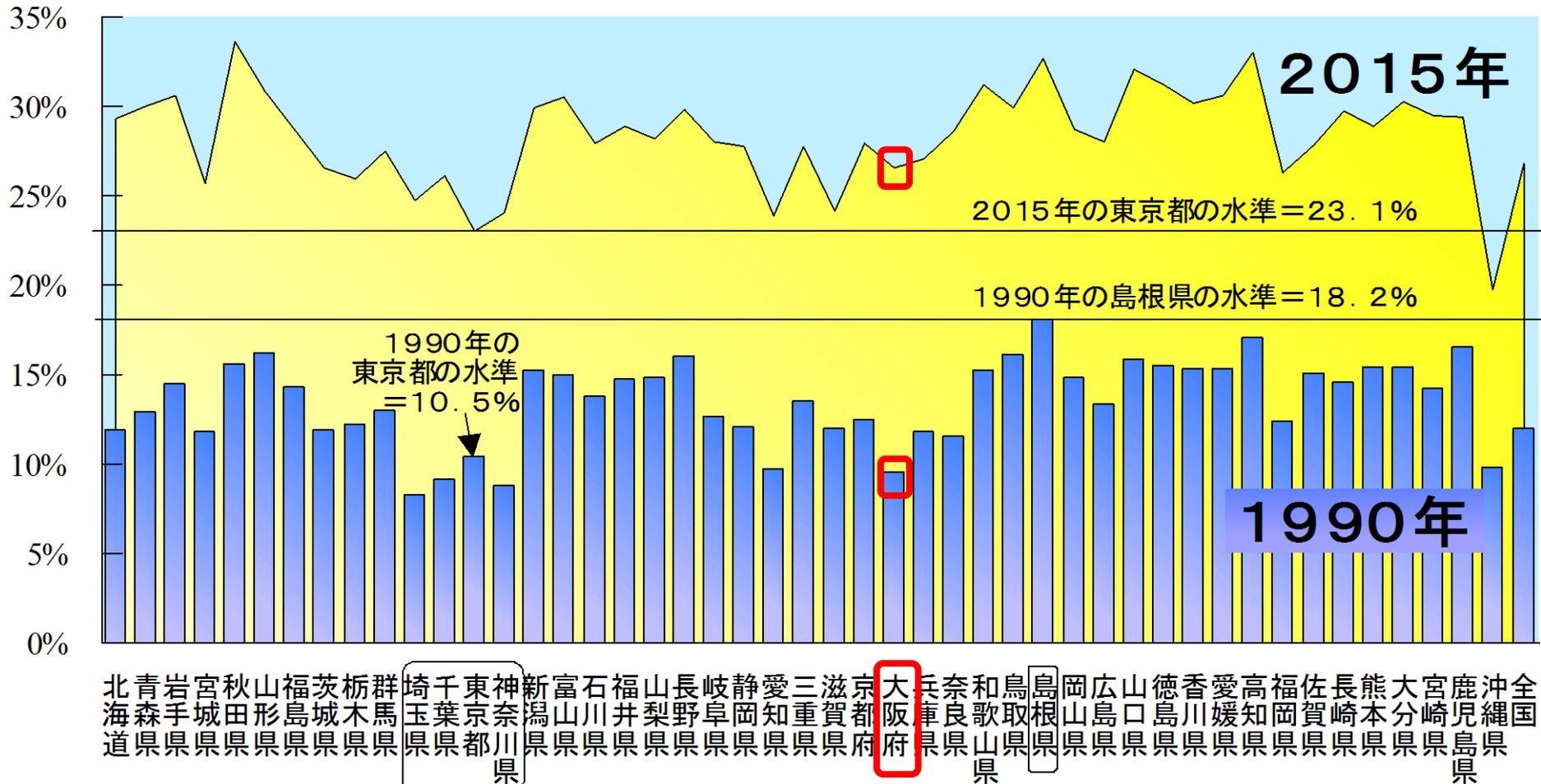


高齢化率: 65歳以上人口 ÷ 総人口

資料: 国立社会保障・人口問題研究所 2013年都道府県別予測

全国で同時に進んでいる「高齢化」

都道府県別の高齢化率 - 1990年と2015年



高齢化率: 65歳以上人口 ÷ 総人口
 1990年: 国勢調査 / 2015年: 国立社会保障・人口問題研究所 2013年都道府県別予測

現役世代の減少と高齢者の増加

65歳以上人口の増減率(2010→40年)

生産年齢人口の減少と
高齢者の増加(今後30年間)

国立社会保障人口問題研究所 2013年予測

50年で
現役世代
がゼロに
なるペース

66%
63%

△61%
△70%

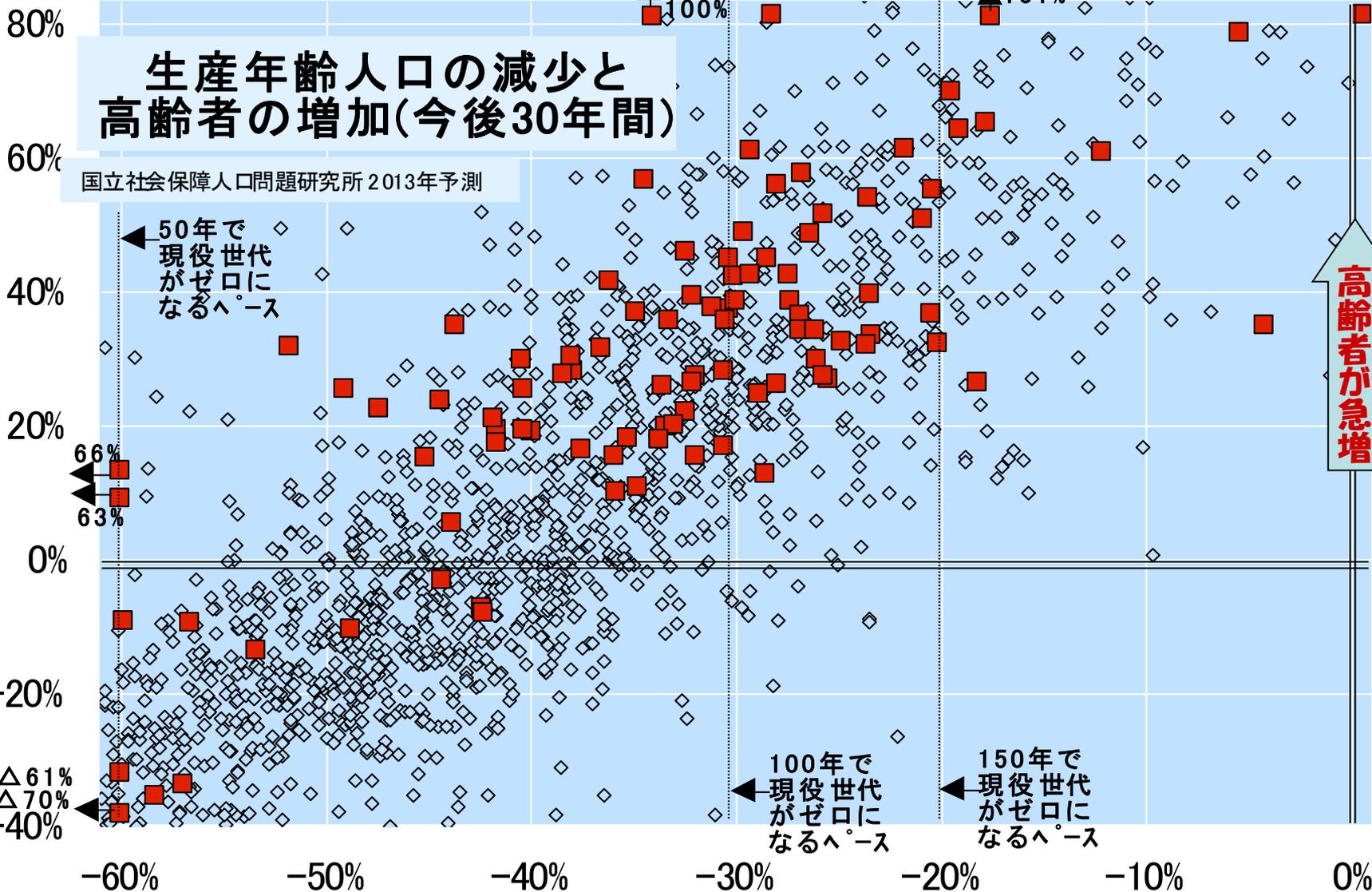
100年で
現役世代
がゼロに
なるペース

150年で
現役世代
がゼロに
なるペース

高齢者が急増

現役世代が減少

15-64歳人口の増減率(2010→40年)

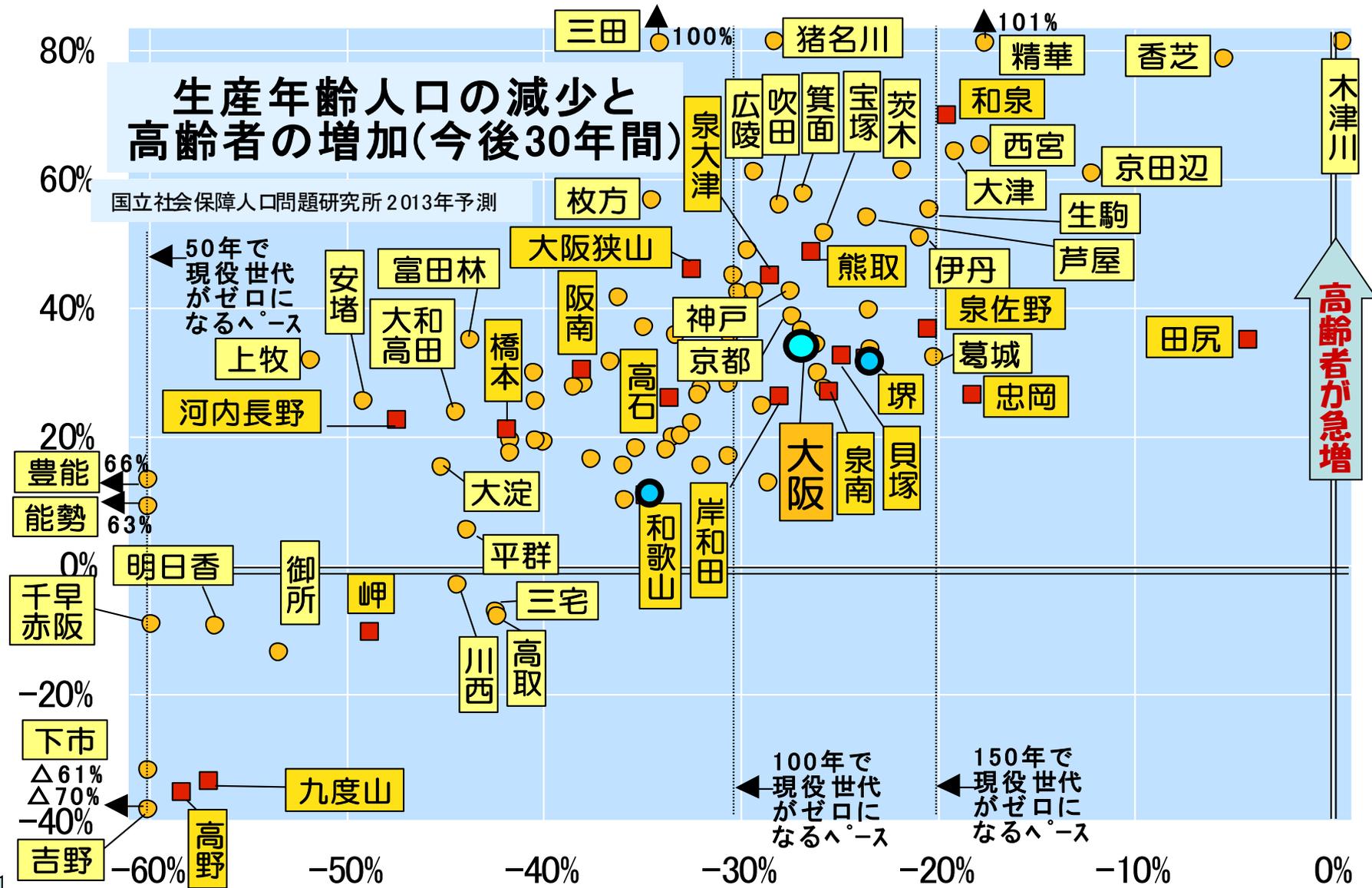


現役世代の減少と高齢者の増加

生産年齢人口の減少と
高齢者の増加(今後30年間)

国立社会保障人口問題研究所 2013年予測

65歳以上人口の増減率(2010→40年)



現役世代が減少

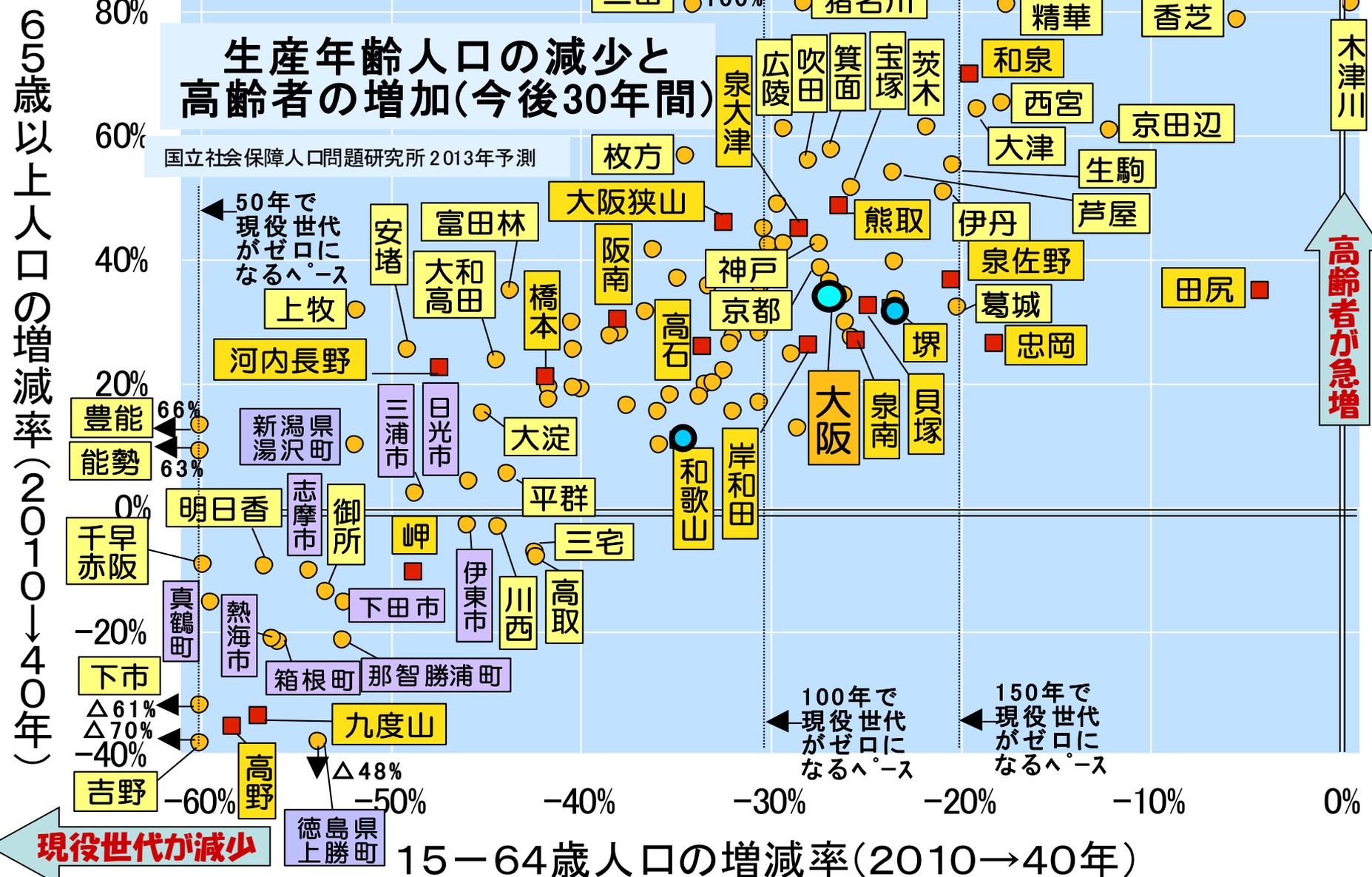
高齢者が急増

15-64歳人口の増減率(2010→40年)

交通至便でもダメな場所はダメ

生産年齢人口の減少と
高齢者の増加(今後30年間)

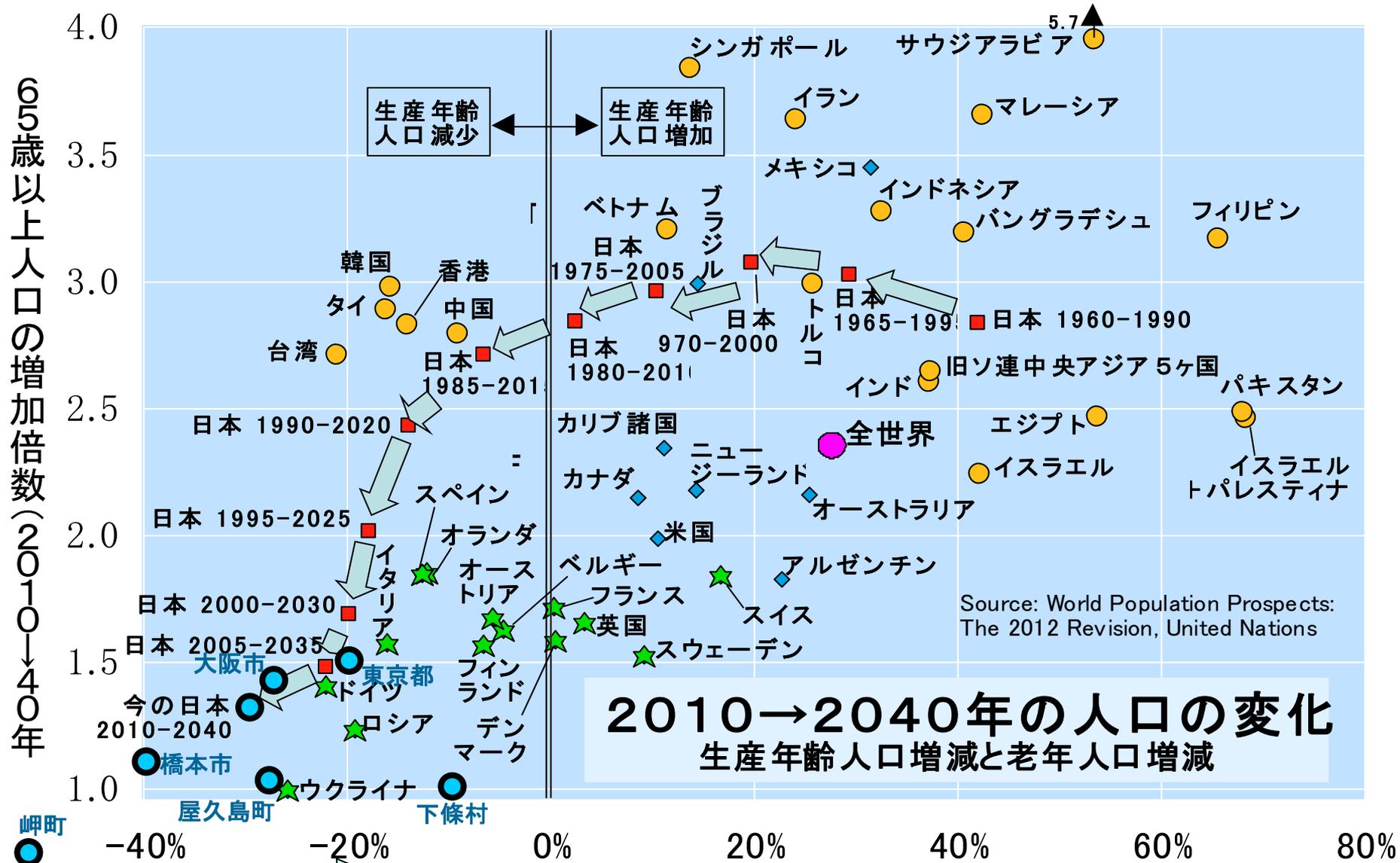
国立社会保障人口問題研究所 2013年予測



現役世代が減少

15-64歳人口の増減率(2010→40年)

同じグラフで世界を比較すると...



2010→2040年の人口の変化 生産年齢人口増減と老年人口増減

バックスピンをかけよう

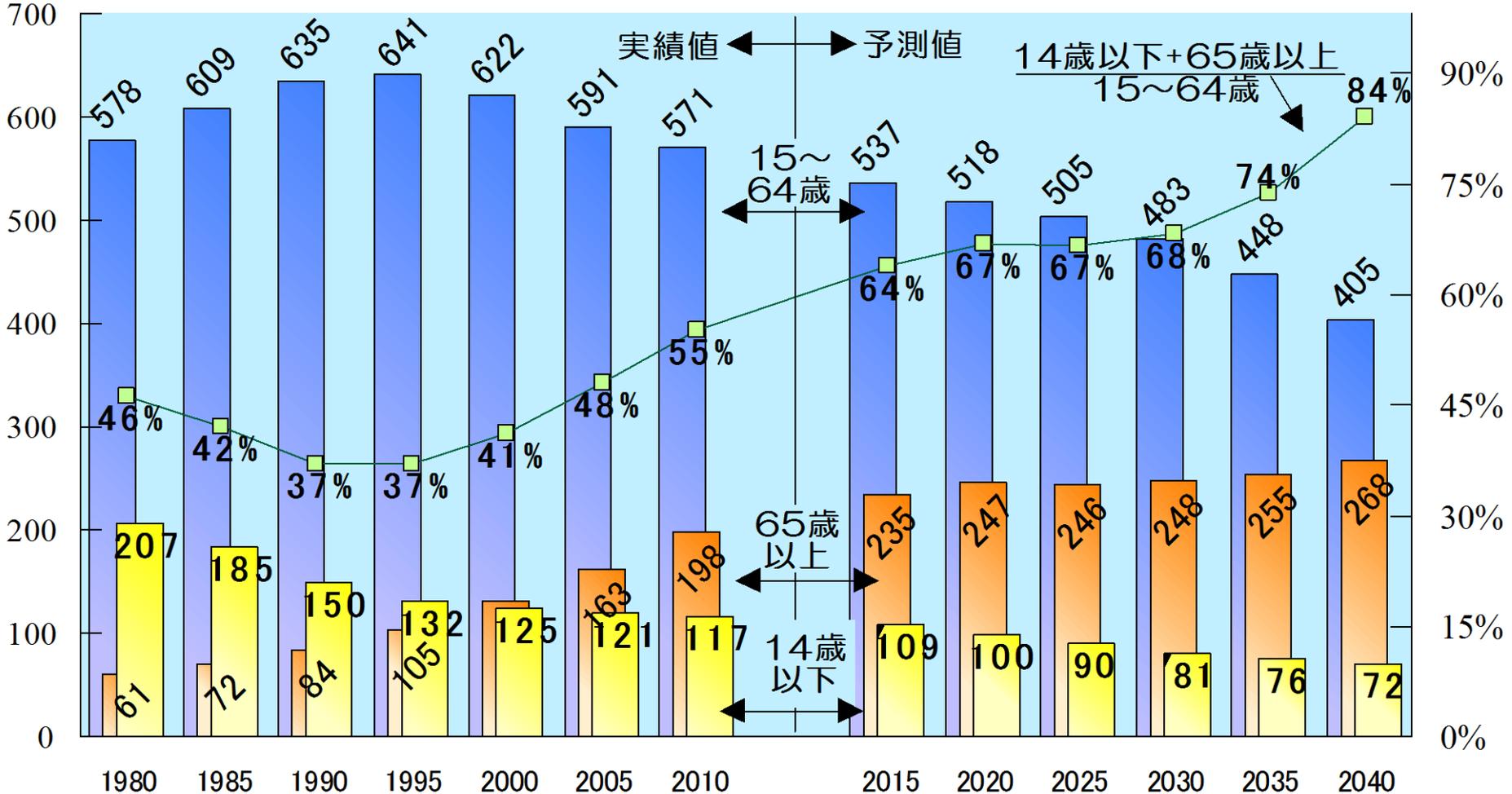
15-64歳人口の増減率(2010→40年)

現役世代の減少が続く大阪府

年齢階層別にみた大阪府の在住者数（1980-2040）

万人

実績：国勢調査(2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正值)
 予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値

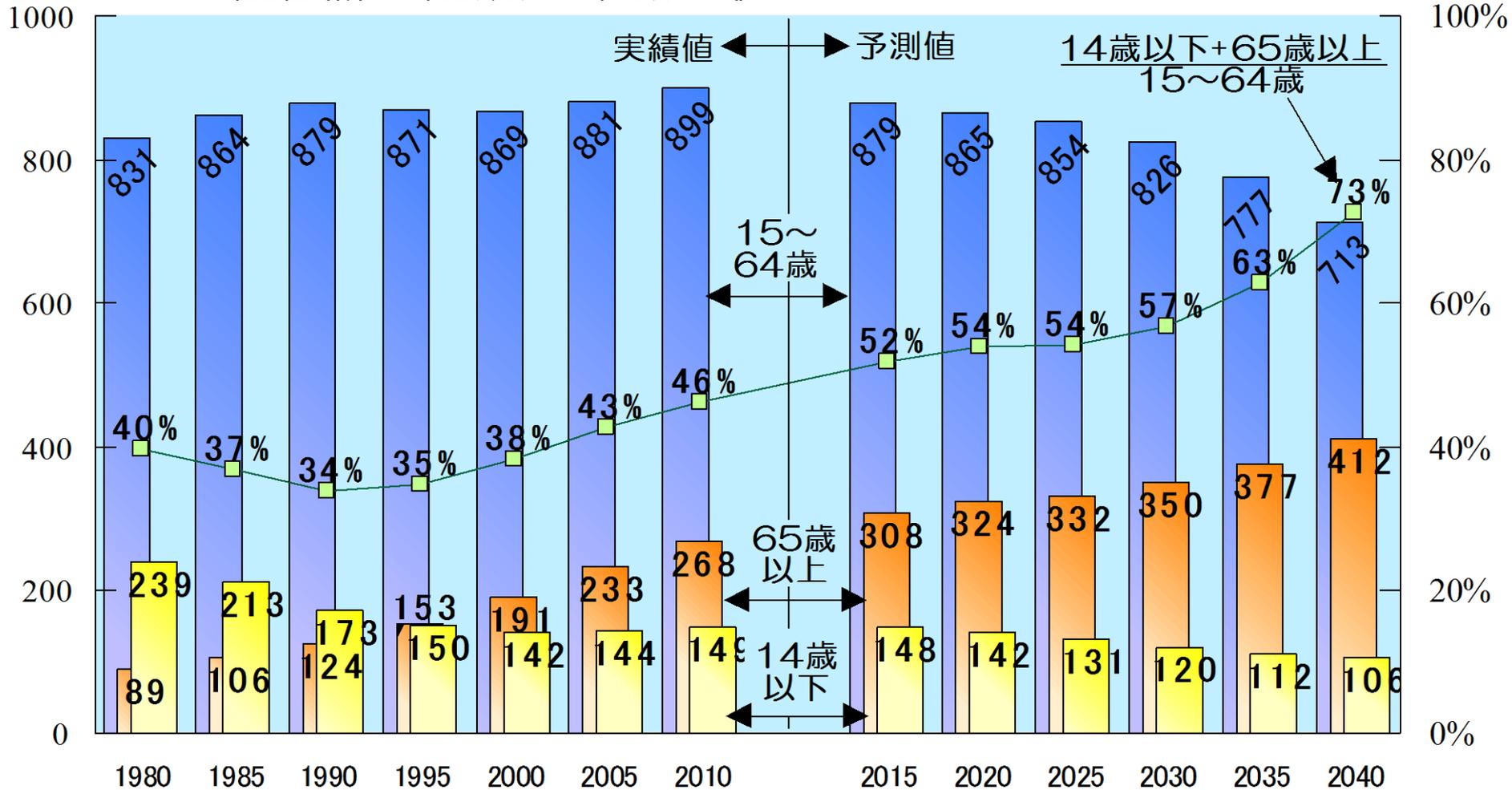


高齢者だけが増え続ける東京都

年齢階層別に見た東京都の在住者数（1980-2040）

万人

実績：国勢調査（2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正值）
 予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値



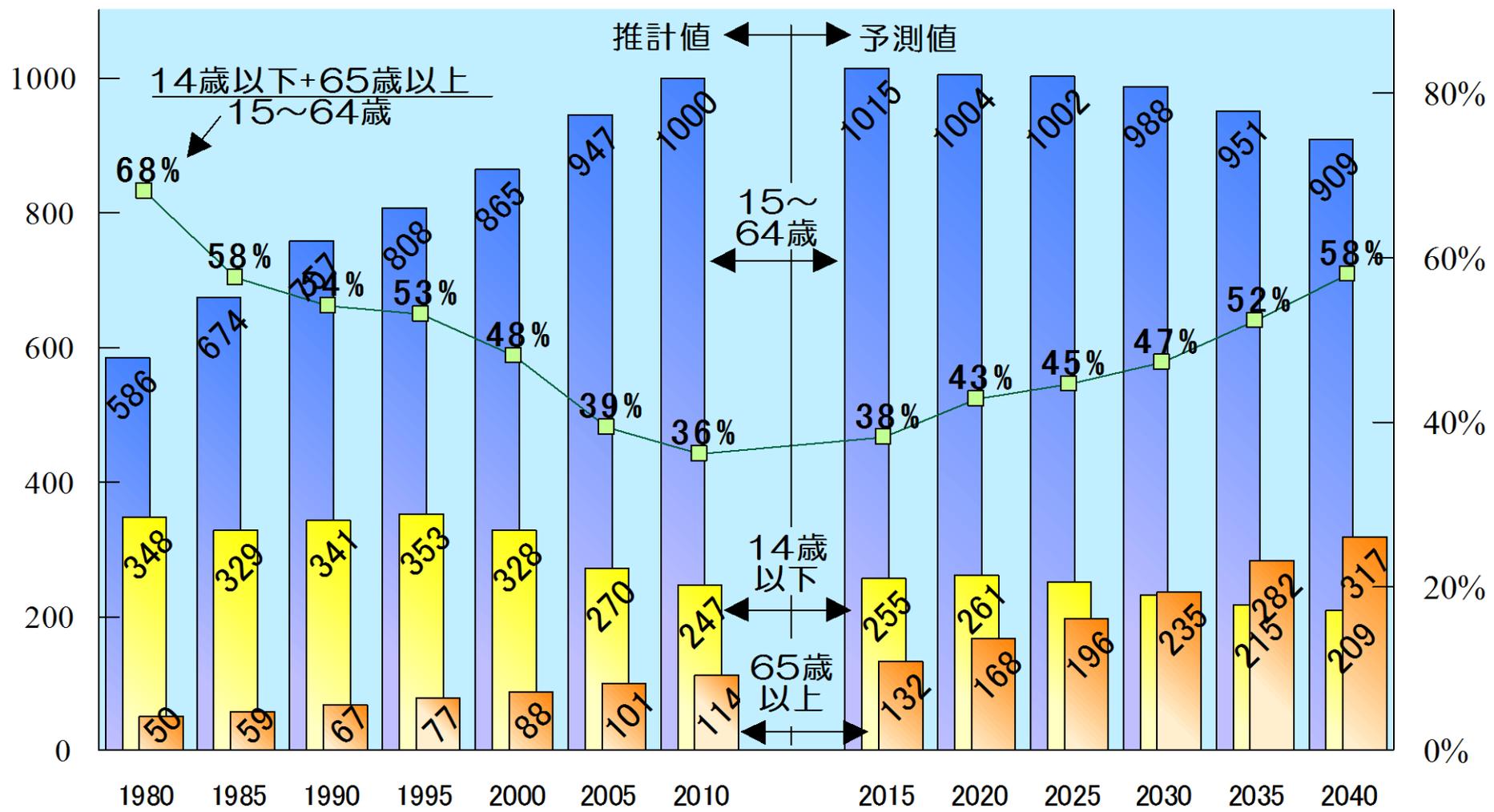
高齢者だけが増え続ける中国

年齢階層別にみた中国の在住者数（1980-2040）

百万人

数字には居住外国人を含む

資料：国際連合人口部 2012年世界人口予測



安定を実現した長野県下條村

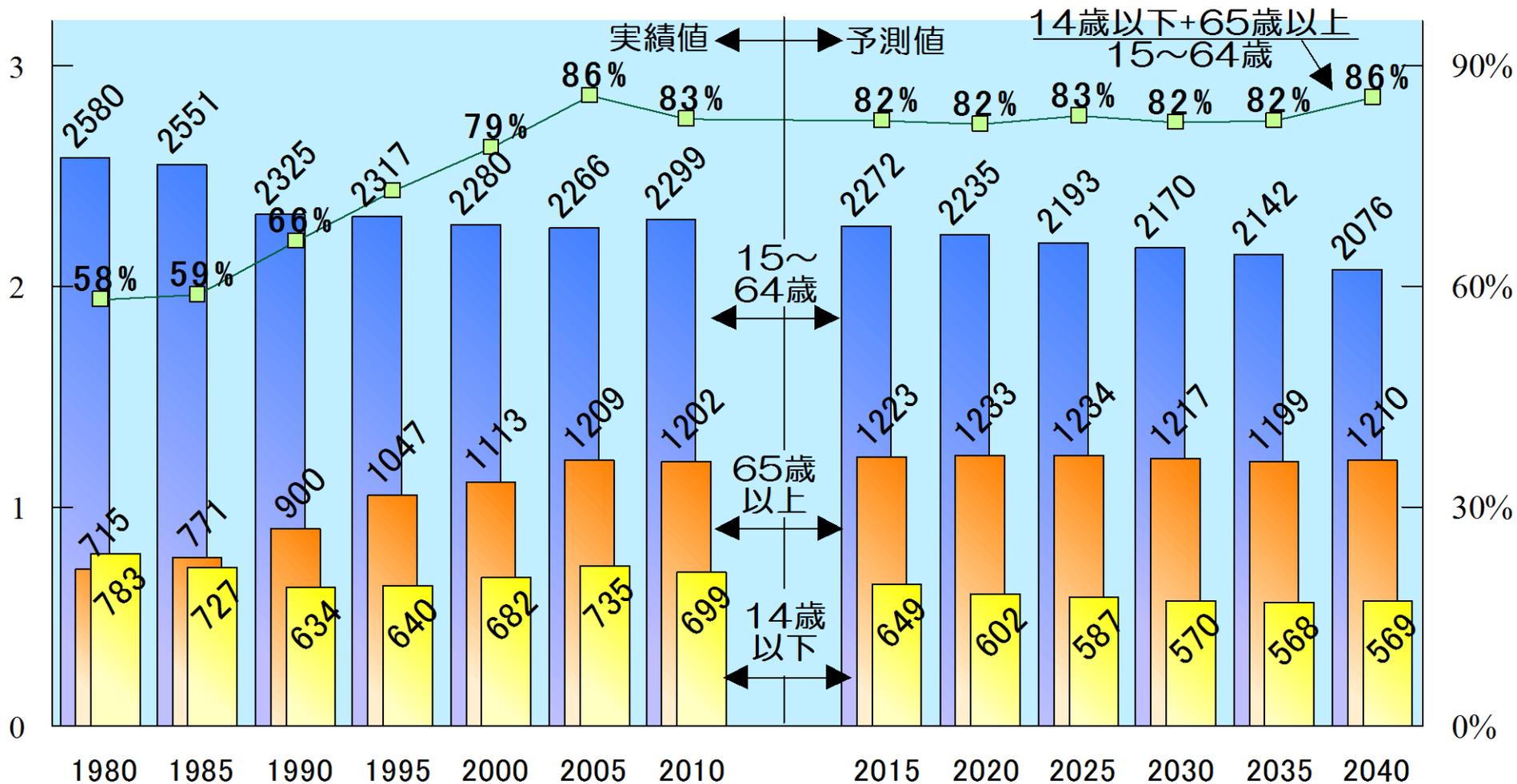
年齢階層別に見た長野県下條村の在住者数（1980-2040）

千人

実績：国勢調査(2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正值)

予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値

数字には居住外国人を含む

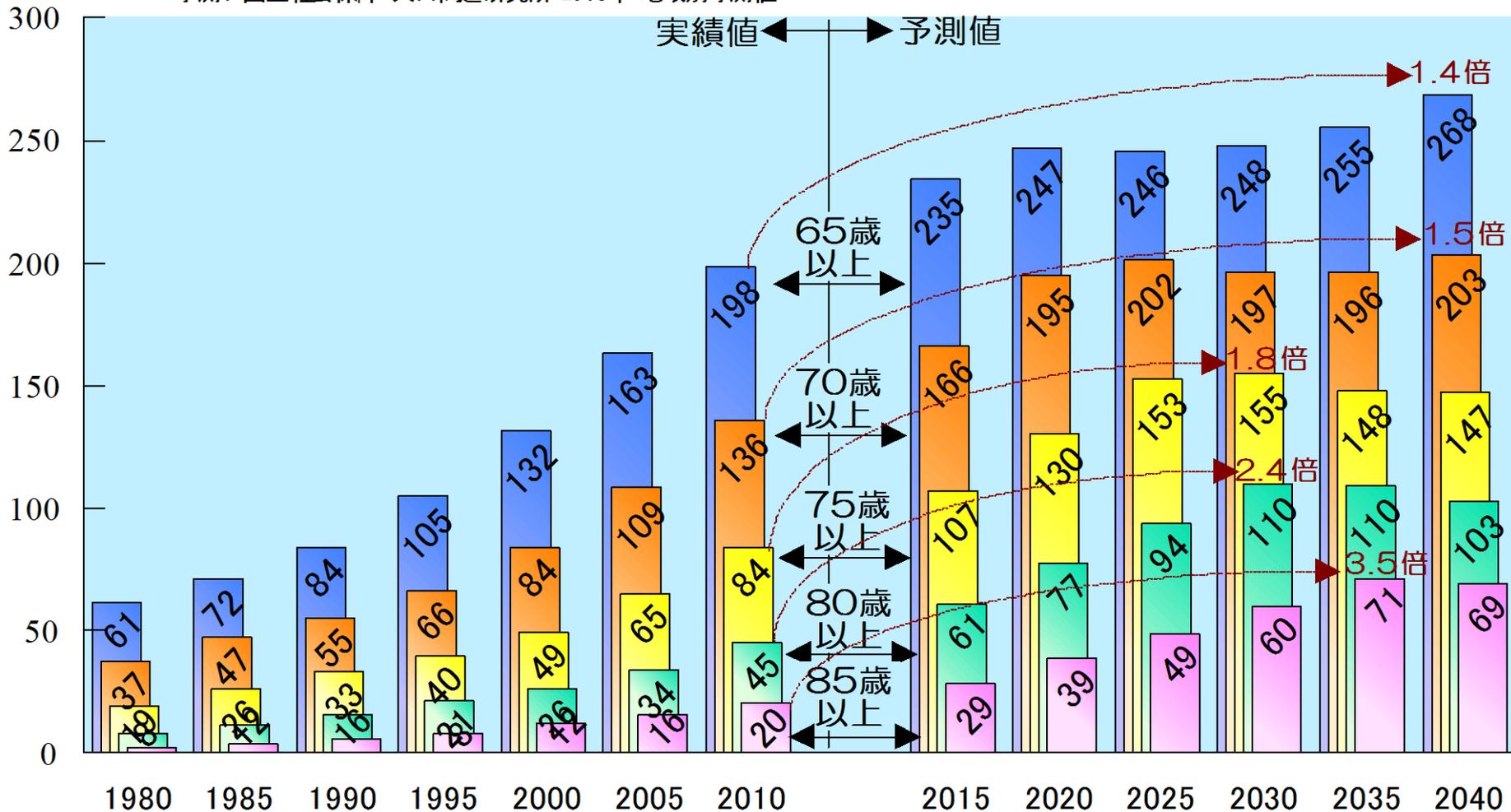


後期高齢者が急増する大阪府

年齢階層別に見た大阪府の高齢者数（1980-2040）

万人

実績：国勢調査(2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正值)
 予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値

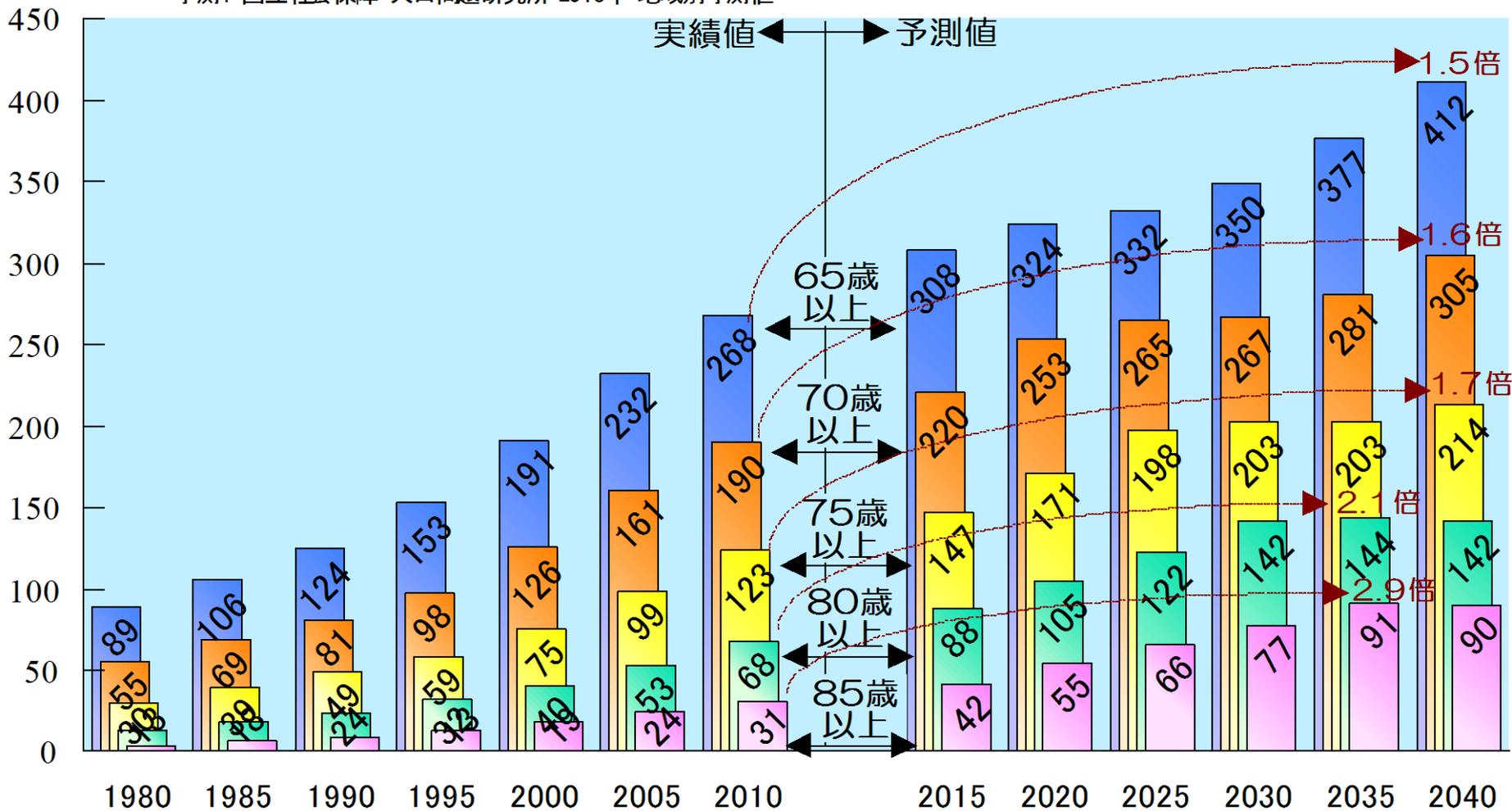


後期高齢者が急増する東京都

年齢階層別にみた東京都の高齢者数（1980-2040）

万人

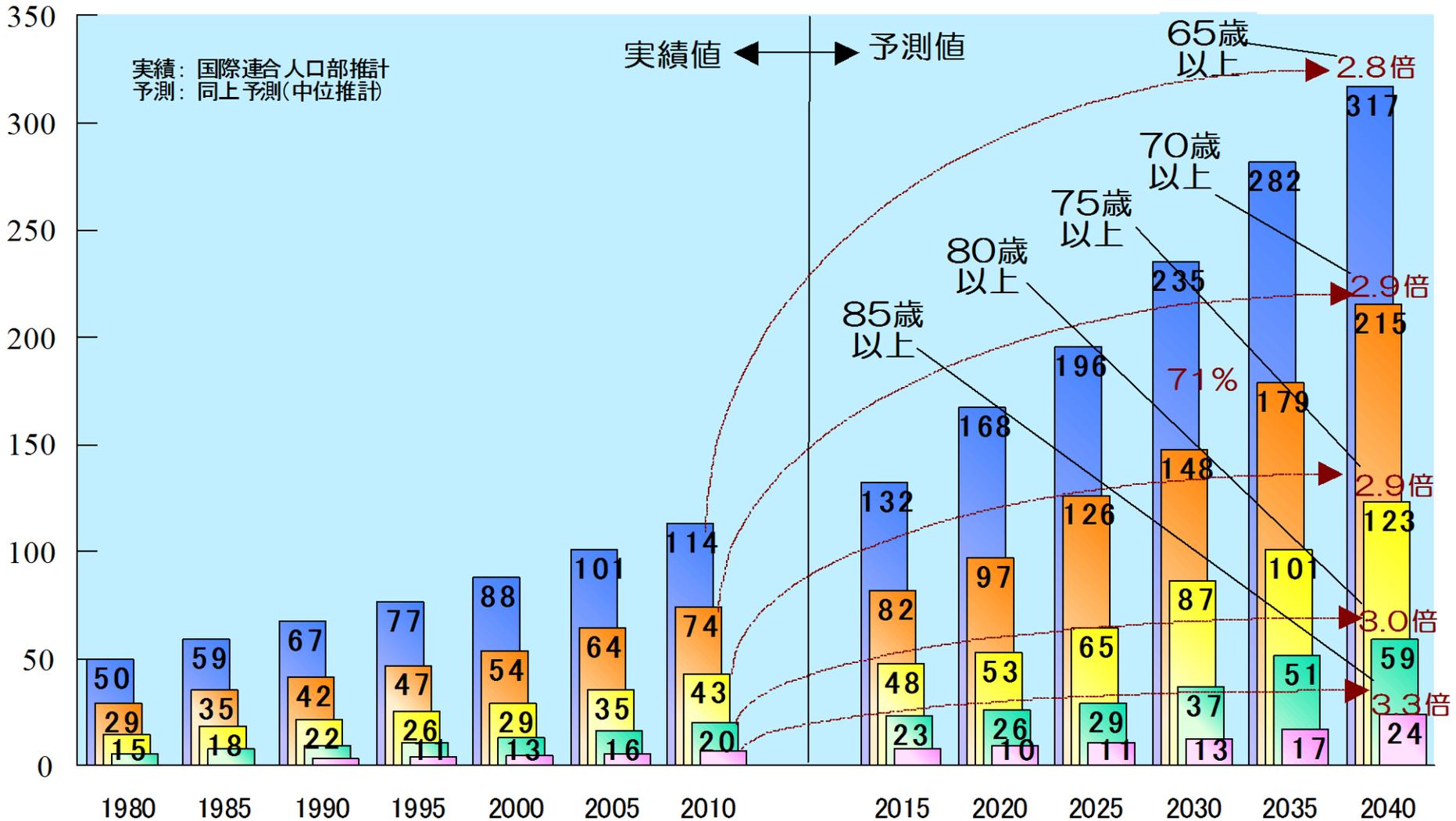
実績：国勢調査（2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正值）
 予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値



高齢者の激増が始まる中国

年齢階層別に見た中国の高齢者数（1980-2040）

百万人



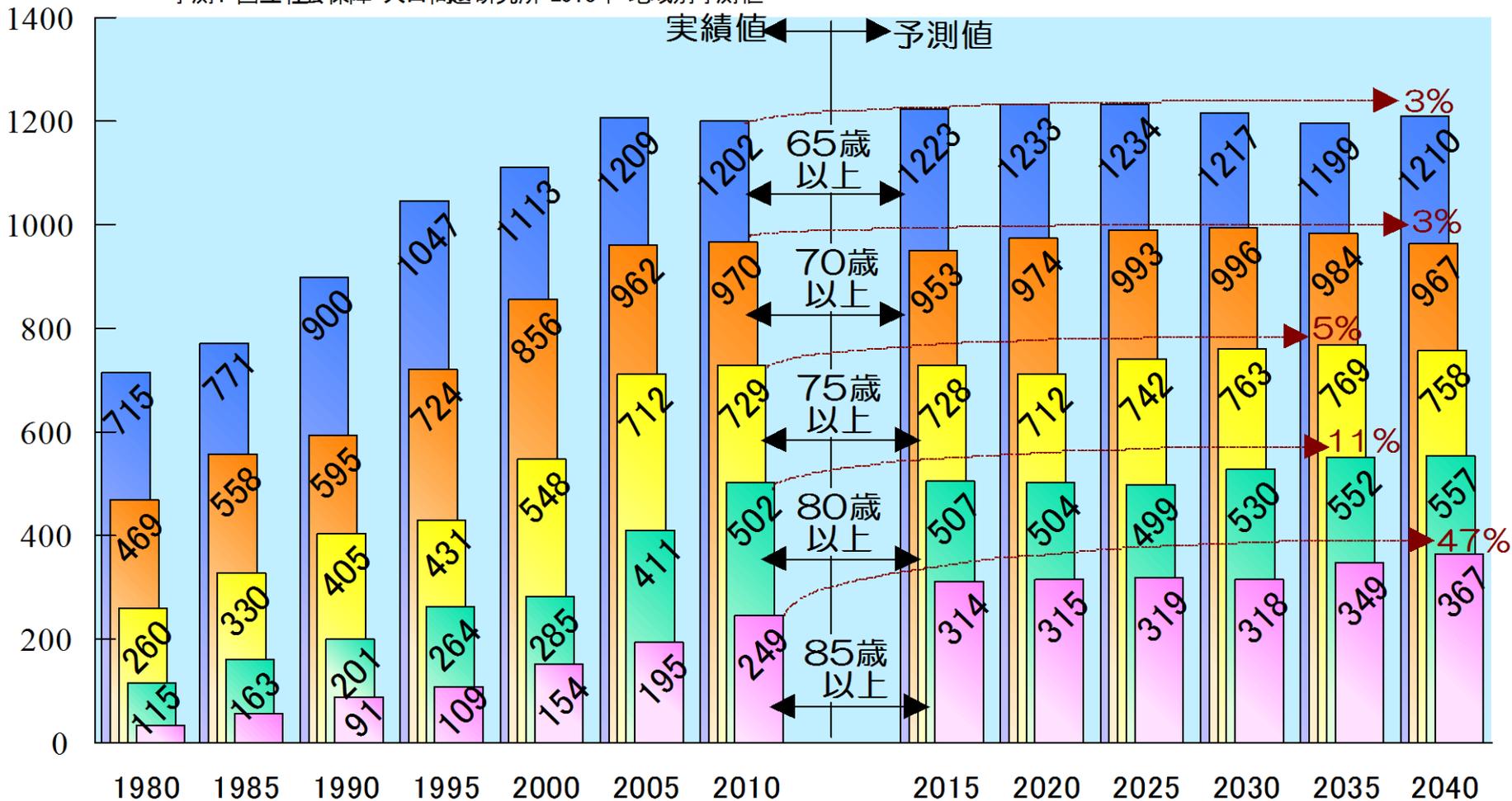
安定を実現した長野県下條村

年齢階層別に見た長野県下條村の高齢者数（1980-2040）

人

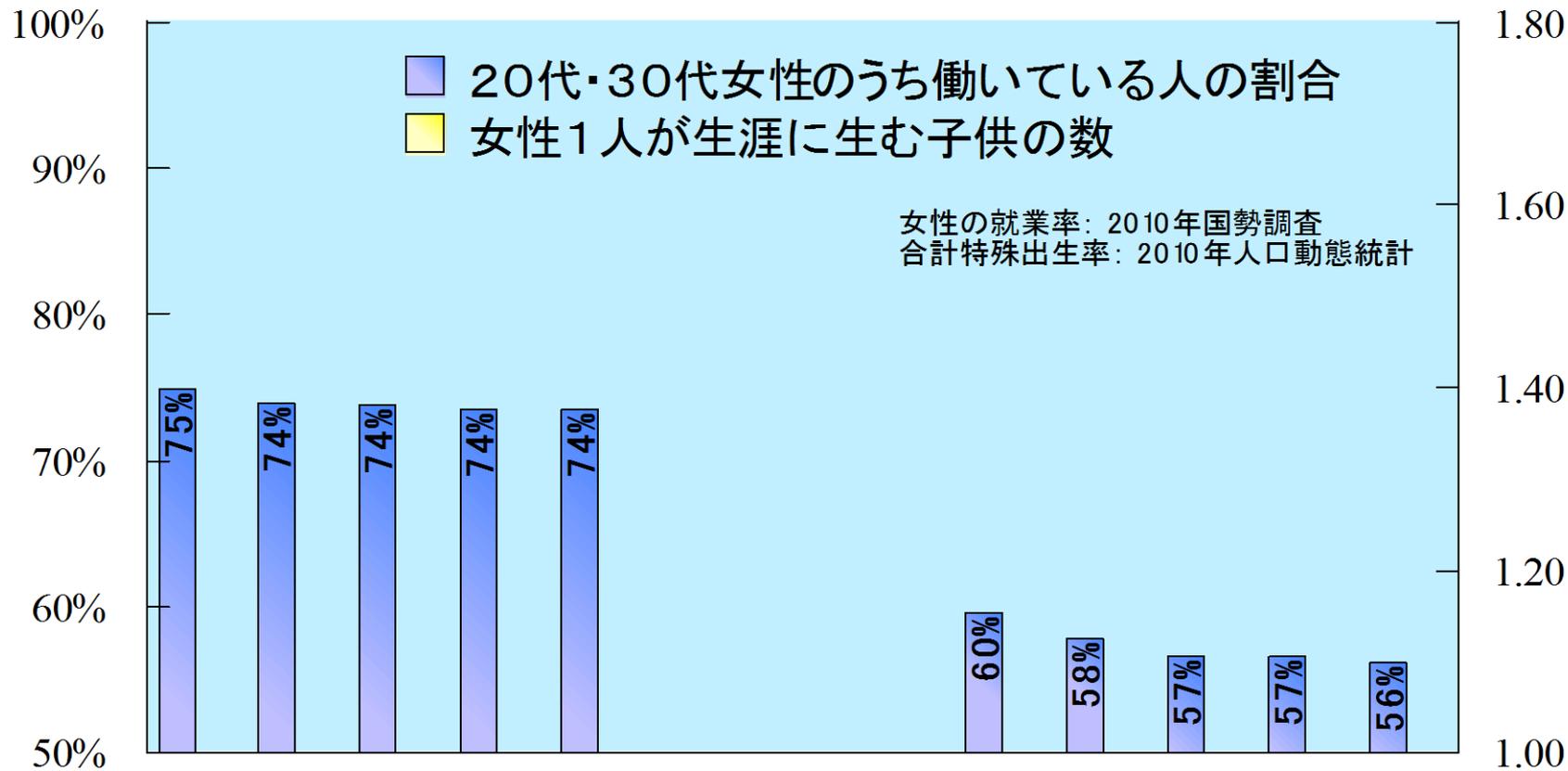
実績：国勢調査(2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正値)
 予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値

数字には居住外国人を含む



若い女性が働くと出生率は...

20代・30代女性のうち働いている人の割合

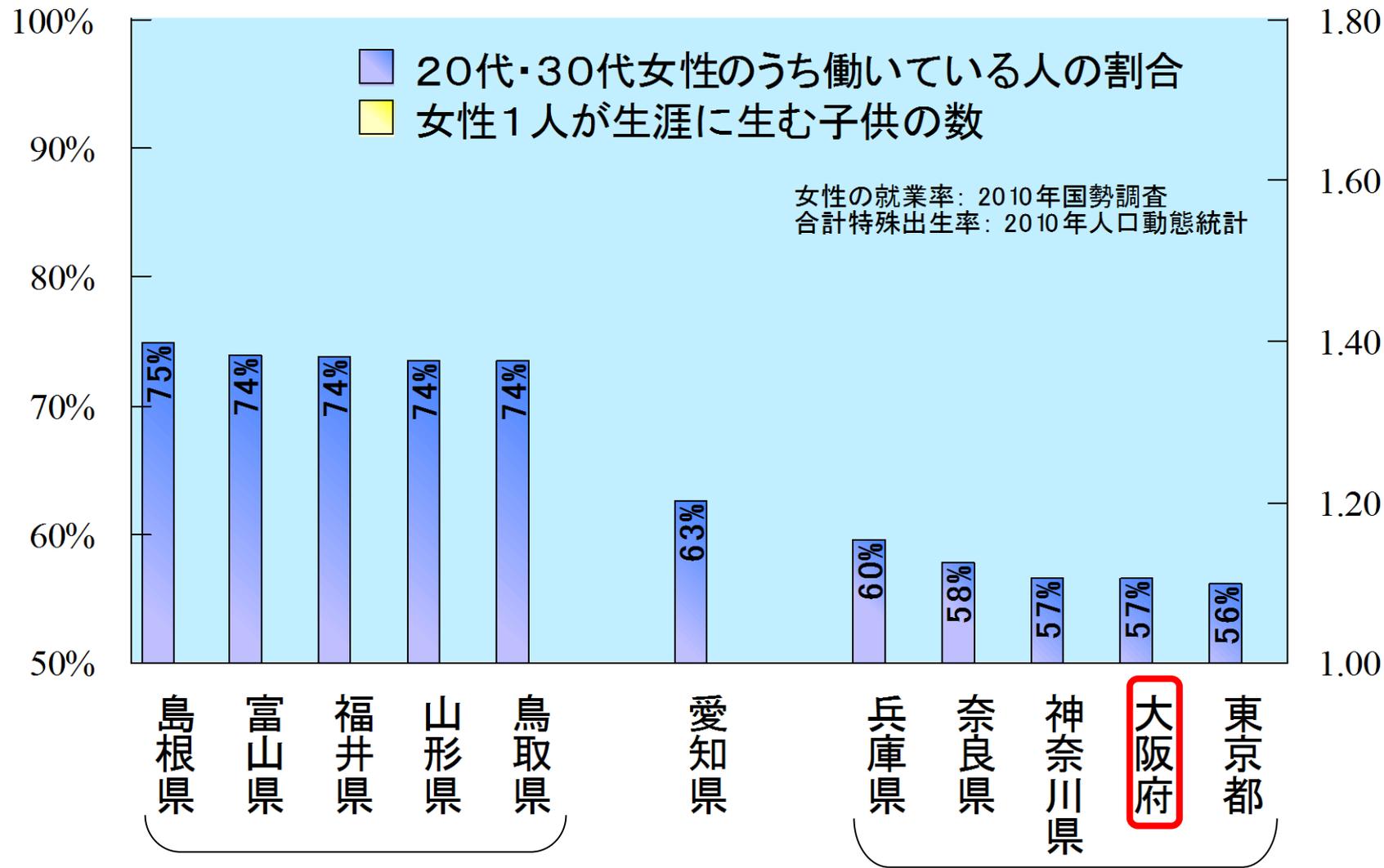


**20・30代女性が働く
都道府県トップ5**

**20・30代女性が働かない
都道府県トップ5**

若い女性が働くと出生率は...

20代・30代女性のうち働いている人の割合



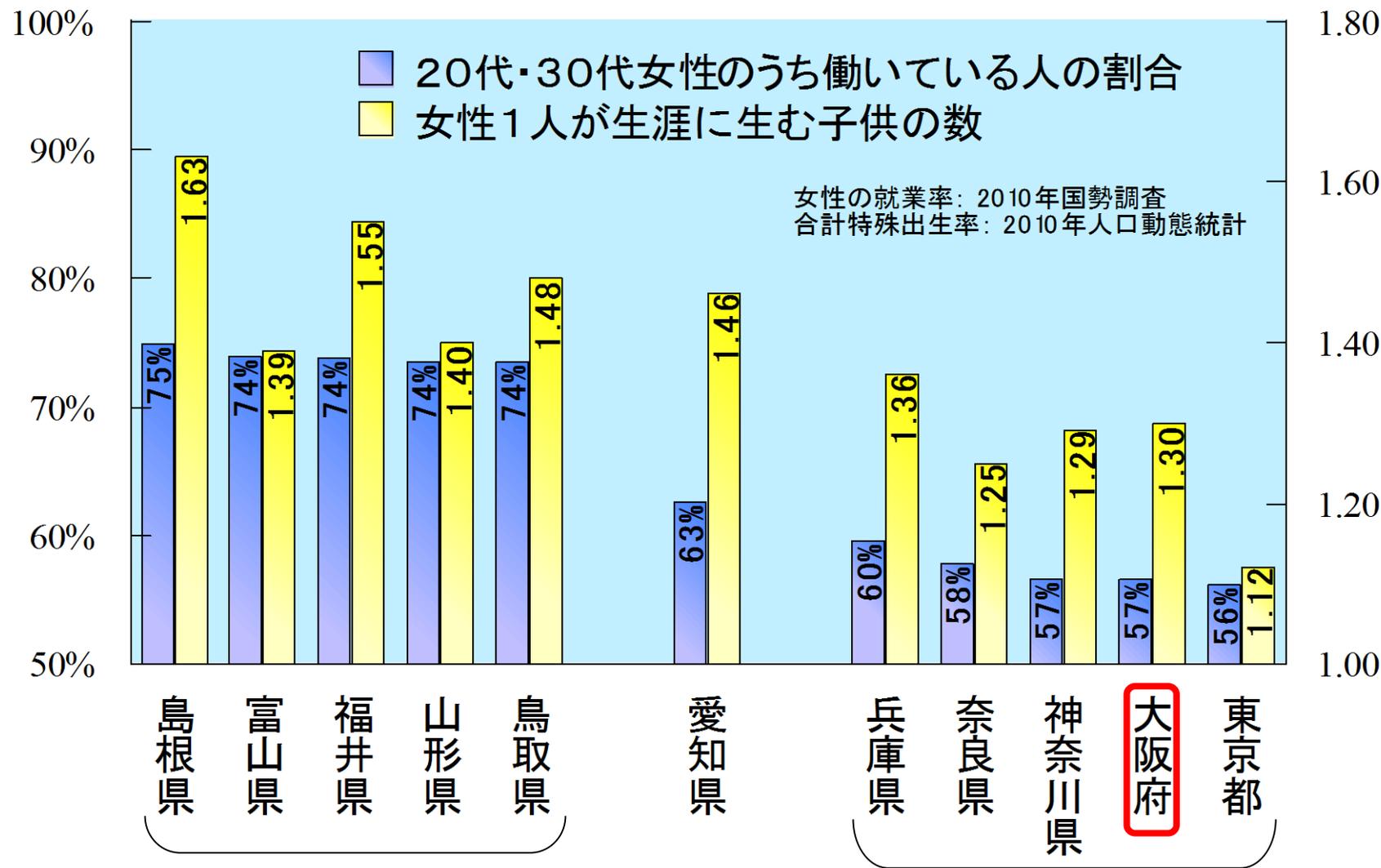
合計特殊出生率

**20・30代女性が働く
都道府県トップ5**

**20・30代女性が働かない
都道府県トップ5**

女性が働く県の方が出生率も高い

20代・30代女性のうち働いている人の割合



20・30代女性が働く
都道府県トップ5

20・30代女性が働かない
都道府県トップ5

高齢者激増が突きつける課題

- **大都市部での高齢者の激増 → 首都圏などの自治体の財政困窮 → 地方に回す財源が枯渇**
- **高齢者の未病を進められるか？**
- **終の棲家を確保できるか？**
- **死に場所を確保できるか？**
- **車を運転しなくなった高齢者に
いかに歩いて暮らしてもらおうか？**

現役世代減少が突きつける課題

- **首都圏でも中国でも現役世代が減少 → 「地域間格差」ではなく、日本全体そしてアジアの地盤沈下**
- **就業者総数の減少 → 所得総額の減少 → 消費総額の減少の連鎖**
- **税収減少 → 国の借金どう返す？**
- **医療福祉介護の担い手の不足**
- **増え続ける空き地をどうするか？**

止められないこと・できること

× 止められないこと

- 今の住民が毎年1歳ずつ歳を取っていくこと
- (多くの)若者が地域外に就職して出て行くこと

△ 変えられること

- これまでには一度出て行ったきり帰ってこなかった若者たちを、今後は工夫次第で呼び戻せる
- 子育て世代の支援で、出生率を高くできる

○ おそらく前向きにできること

- 子育てしながら働く若い世代を呼び込める
- 無病息災で天寿を全うする高齢者を増やせる
- 来訪・滞在・短期定住する外来者を増やせる

止められないこと・できること

× 止められないこと

- 今の住民が毎年1歳ずつ歳を取っていくこと
- (多くの)若者が地域外に就職して出て行くこと

△ 変えられること

- これまでには一度出て行ったきり帰ってこなかった若者たちを、今後いかに地域外へ呼び戻せる

- 子育て世帯

**「里山資本主義」こそ
これらを進めるための
カギとなる発想**

○ むしろ前

- 子育て世帯

- 無病息災

- 来訪・滞在・短期滞在の増加を促す

“里山資本主義” とは何か？

「マネー資本主義」の欠陥を補うサブシステム (保険)
資源+お金+善意を循環させ、経済を元気にする

！ 里山や離島に眠る、金銭換算すると無価値の資源

①耕作放棄地、②立木、③半端モ/農産品、④退職者、⑤野獣...

！ でもそれを資本として活かすと、水/食料/燃料
+αを自給+物々交換できる (←農山漁村では常識ですが...)

① 食糧+エネルギーの自給率向上で、外に出て行くお金が減る
② 物々交換で絆が強まる ③ 自給+絆で、天災に強い地域となる

！ 無価値の資源を資本として活かすと、工夫次第で外から
もっとお金を稼げ、そのお金を地域内で回せる

④ 6次産業がしみじみと外貨を稼ぐ ⑤ 地消地産(=地元民と観光客が、地元産を消費すること)で、その外貨が地域内で回る
⑥ 地元産自然エネルギーを都会に売る ⑦ 若者の雇用が増える

マネー資本主義と里山資本主義

マネー資本主義

里山資本主義

動機

自分が、いま、一番になる

社会が減びずに続いていく

目標

お金儲けの一番を目指して
際限なく稼ぎ、貯め込む

代替りのない中継者になる
= 稼いでは回しバトンをつなぐ

戦略

粗暴バージョン：
他者/他集団から奪い取る

素朴バージョン：
何でも自給自足する

知能バージョン：
未来/次世代から搾取する
← 簿外資産を浪費して蓄財する
(地下資源、水、土壌、大気、子供、絆...)
← 借金や汚染物質を後世に残す

成熟バージョン：
循環・再生が可能な範囲で
ほどほどに稼ぎ、使う
← 使ったものは元に戻す
← 1万万と清浄な環境を残す

手法

等価交換 / 金融投資
自由競争 / リスクの個人化

物々交換・贈与 / 実物投資
協働 / リスクの社会化

里山資本主義・高齢化の大逆転

× **20世紀：高齢化する田舎 / 若々しい大都市**

○ **21世紀：高齢者が減る田舎 / 激増する大都市**

→ 大都市では今後高齢者が激増 / 田舎ではむしろ減りだす

→ 田舎は、今の医療介護体制を維持できれば何とかなるが、大都市ではいつまでも医療介護の体制整備が追いつかない

→ 先に高齢化した田舎で成り立つ企業が、全国で生き残る

→ 人口が少ない方が食料自給率や自然エネルギー自給率を高く保つことができ、長持ちする社会ができる

→ 結局生き残るのは子供が生まれる地域 / 都会の子育てを容易にするより、子育ての容易な田舎に若者を戻す方が早い

ただし問題は、惰性的のように続く若者の流出を止められるか。雇用創出よりも、耕作放棄地と空家の賃貸促進による、若者受け入れがカギ。

里山資本主義・エネルギーの大逆転

× **20世紀：建物は鉄筋コンクリートか新建材フレハブ**

○ **21世紀：集成材を使った木造近代建築の時代**

- 燃えない、丈夫で長持ちで地震に強い、集成材建築が新登場
- 欧州では7階建てや9階建ての木造高層建築も増加中
- 地元産集成材を使えば、山の木が再び宝に化ける
- 集成材の副産物である木屑やチップを燃やすと、灯油より何割も安いコスト(場合により半額)で暖房や発電ができる！

ただし問題は、日本の施主がほとんど木造建築の技術革新に気づいておらず、集成材が使われず、木屑も発生しないので、発電もできないこと。

里山資本主義・産業の大逆転

× **20世紀**：「**ハイテク工業**」で**経済成長・雇用増**

○ **21世紀**：「**6次産業**」で**循環・再生の拡大**

1次(栽培/漁獲) × 2次(加工) × 3次(ブランド化) = 6次産業

→ **ハイテク産業地域の苦境**：商品陳腐化加速・低収益・雇用減

→ 地元の農水産品に根ざしたブランド品や集客交流は好調

→ **国際競争に強いのはスイスや仏伊など6次産業の強い国**

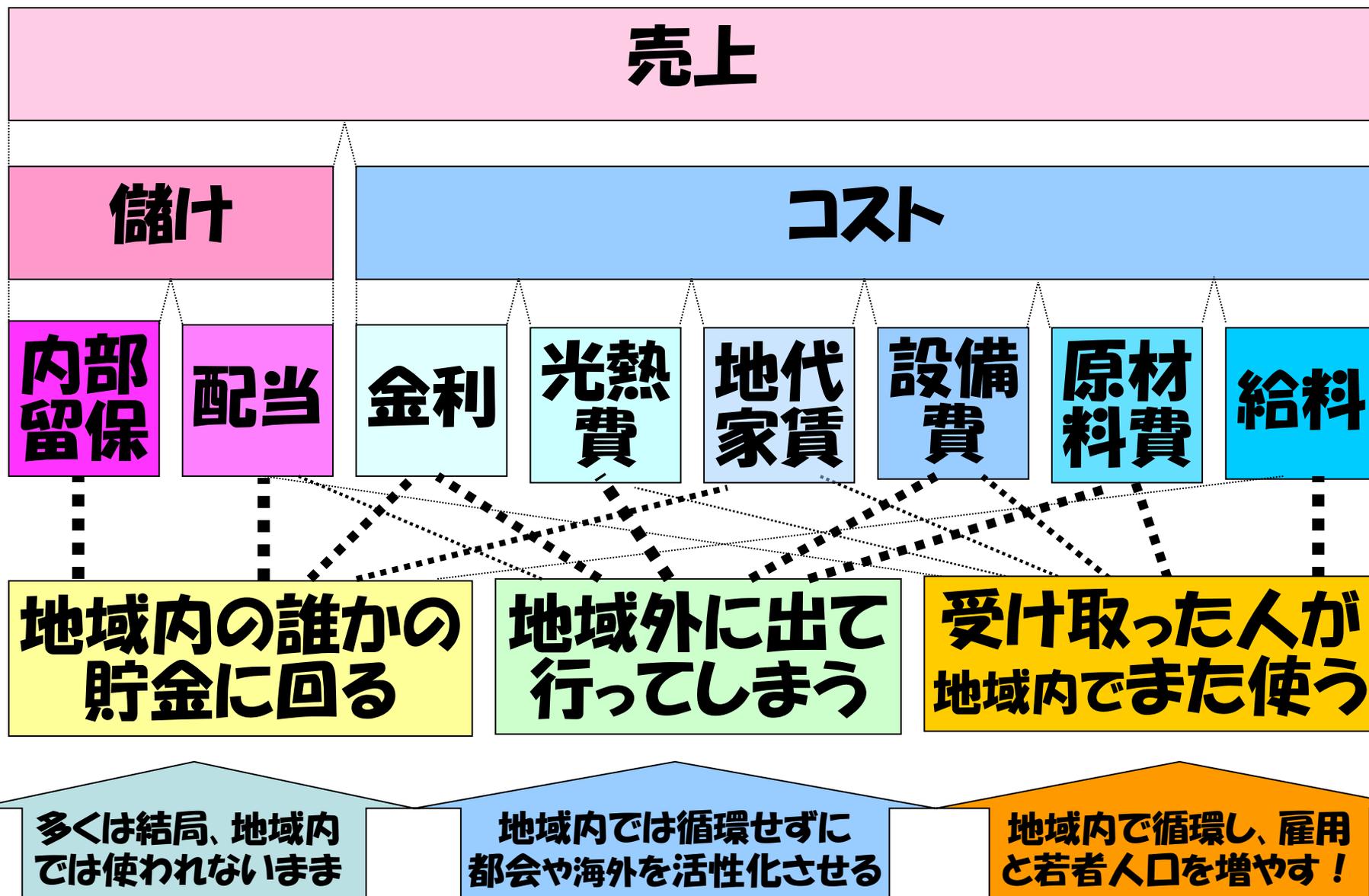
→ 世界中から一番安くて大量に作られたものを買ってくるのではなく、地元産の質を上げてもっともっと使う生活へ

観光客に地元産以外の食材を出していないか？

地元民は、地元内産を買っているか？

何も考えずにお金を地元の外に戻していないか？

お金の使い方次第で地域が変わる



お金の使い方次第で地域が変わる

売上

地元産のブランドを上げ
より高価格で「外貨」獲得！

都会に預け
ず地域内に
再投資！

地域から
資金
調達！

地域から
資金
調達！

地域産工
ネルギー
を活用！

地域内
向けは
安く！

地域の
業者に
発注！

地消地
産物々
交換を
促進！

雇用増！
賃上げ！
兼業奨励！

内部
留保

配当

金利

光熱
費

地代
家賃

設備
費

原材
料費

給料

地域内の誰かの
貯金に回る

地域外に出て
行ってし

受け取った人が
地域内でまた使う

多くは結局、地域内
では使われないまま

地域内では循環せずに
都会や海外を活性化させる

地域内で循環し、雇用
と若者人口を増やす！

お金の使い方次第で地域が変わる

売上

地元産のブランドを上げ
より高価格で「外貨」獲得！

都会に預け
ず地域内に
再投資！

地域から
資金調達！

地域から
資金調達！

地域産工
ネルギー
を活用！

地域内
向けは
安く！

地域の
業者に
発注！

地消地
産物々
交換を
促進！

雇用増！
賃上げ！
兼業奨励！

内部
留保

配当

金利

光熱
費

地代
家賃

設備
費

原材
料費

給料

地域内の誰かの
貯金に回る

地域外に出て
行ってし

受け取った人が
地域内でまた使う

多くは結局、地域内
では使われないまま

地域内では循環せずに
都会や海外を活性化させる

地域内で循環し、雇用
と若者人口を増やす！

お金の使われ方が変わる

大阪府民1人当たりの
年間のモノ消費は120万円程度

→ その1% = 1.2万円 地元産の消費を増やせば
+ 1,100億円が地元経済に回る

→ 給与 + 福利厚生が400万円 / 人の
雇用を2万8千人分増やせる

大阪府民1人当たりの
年間のエネルギー支出を40万円とすると

→ その1% = 4千円だけ省エネを進めれば
+ 360億円が地元経済に回る

→ 給与 + 福利厚生が400万円 / 人の
雇用を9千人分増やせる

内部留保

配当

金

賃

原材料費

給料

再投資

業奨励!

多くは結局、
では使われないまま

雇用
人口を増やす!

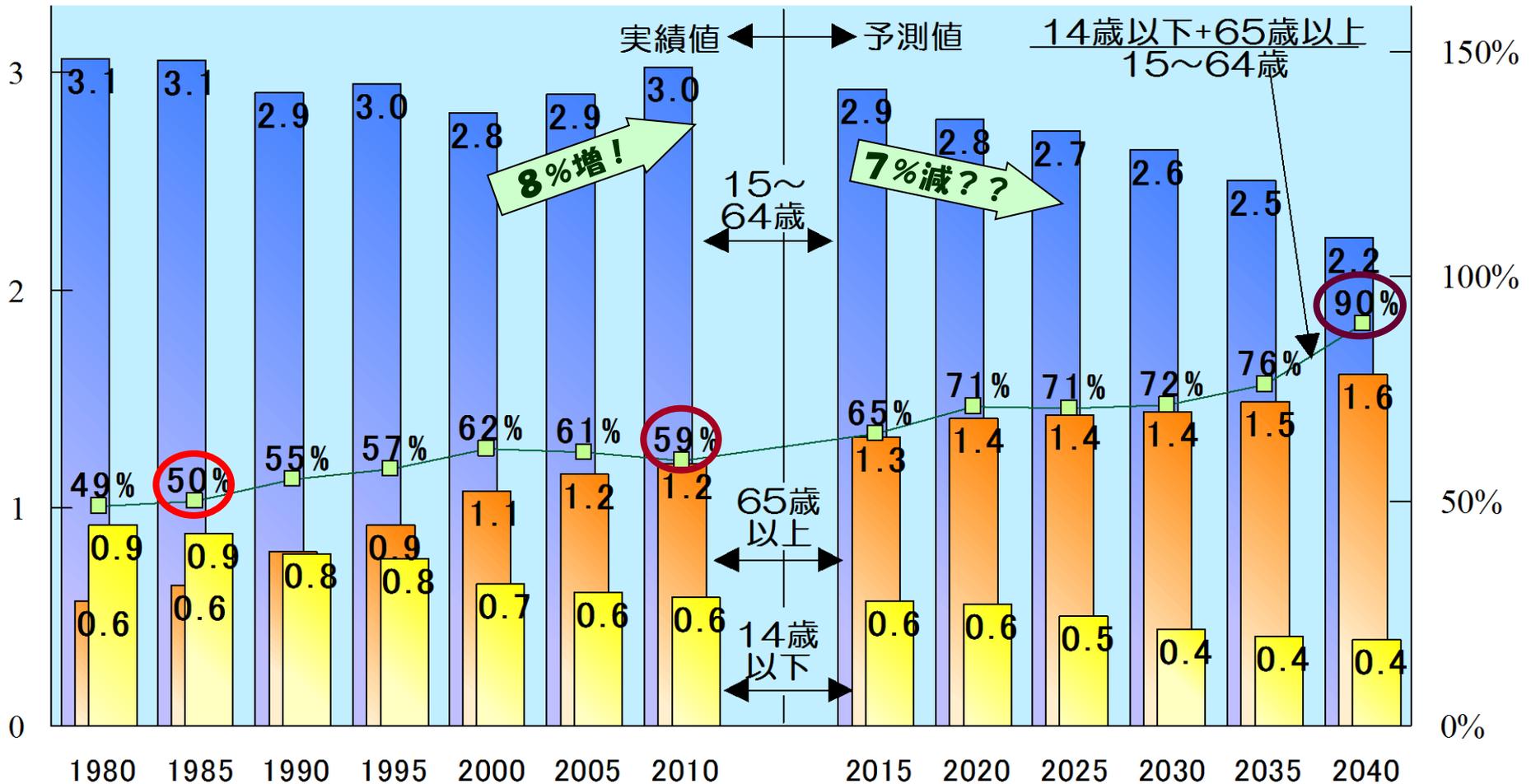
現役世代が増えているニセコ町

年齢階層別に見たニセコ町の在住者数（1980-2040）

千人

実績：国勢調査(2005・2010は国立社会保障・人口問題研究所による補正値)
 予測：国立社会保障・人口問題研究所 2013年 地域別予測値

数字には居住外国人を含む



現役世代人口の増加とニセコ町

年

外国人観光客の増えるニセコで
現役世代人口が増えているのは

(40)

千人

含む

「地域でお金が回っている」から

① 客数ではなく滞在日数 = 客単価の拡大

② 単価のうち地元へ落ちる部分の拡大
= 地元原材料使用、地元民給与アップ

③ 貯金の地域内への再投資

④ 工事の地域内への発注

2

1

0.6

0.4

0

0%

50%

0%

1980

1985

1990

1995

2000

2005

2010

2015

2020

2025

2030

2035

2040

2040

日本の足を引っ張る限界とは？

- ？ 新興国との**国際競争**で劣勢に立っている。
- ？ 生産性が伸びず**経済成長率**が低い。
- ？ デフレが続き**物価**が上がらず**景気**が悪い。

ヒト

子供の減少で社会の縮小が続く。

モノ

遊休不動産・放置山林が急増。

カネ

化石燃料の使い捨てに限界が来た。

情報

貯金が消費に回らず**循環**しない！

客観的な**事実認識**が共有されない。

日本の足を引っ張る限界とは？

定義のあいまいな言葉を持ち出して
何でも「マネー」に換算して不安を煽る話は
まったく問題の本質を突いていない。

気が悪い。

問題の本質は

ヒト・モノ・カネ・情報の循環・再生の不全

- ⑤ 正しい統計情報があるのに、上から下まで無関心
- ④ 空家や遊休農地・山林を、無気力所有者が抱え込む
- ③ 再生できない化石燃料・核燃料に重度に依存
- ② 貯金が「内臓脂肪化」して世間を循環しない
- ① 子供の減少→人口の循環・再生の失敗

情報

客観的な情報が共有されない。

日本の足を引っ張る限界とは？

「もっとマネーを稼げば循環再生も実現」
「マネーを稼げない限り、循環も再生もない」
というのは、似非科学由来の強迫性妄想

が悪い。

妄想に囚われる人の発想法:

- ① この世はお金と資源の奪い合いだ！ 奪い合いに勝てないと食べ物にされる！ という強迫観念がある
- ② 自分より先に競争に敗けて食べ物にされる人や国を見て、同情せずむしろ安心する！（→格差も容認）
- ③ 不安でたまらずお金と不動産にしがみつく

情報

客観的

与されない。

日本の足を引っ張る限界とは？

**「もっとマネーを稼げば循環再生も実現」
「マネーを稼げない限り、循環も再生もない」
というのは、似非科学由来の強迫性妄想**

妄想に囚われる人の発想法：

- ① この世はお金と資源の奪い合いだ！ 奪い合いに勝てないと食べ物にされる！ という強迫観念がある
- ② 自分より先に競争に敗けて食べ物にされる人や国を見て、同情せずむしろ安心する！（→格差も容認）
- ③ 不安でたまらずお金と不動産にしがみつく

日本の里山資本主義で妄想から脱却とは？

- ① お金と資源の奪い合いに狂奔せずとも、水・食料・燃料を一定程度自給して、豊かに生きられる
- ② 田舎は多くの人口は養えないけれど、金と見栄に釣られた人が都会に出て行く分、新規参入は大歓迎
- ③ 自然相手に、人間同士の勝ち負けは無意味
→ お金より人の絆、学術より生活術

里山資本主義で循環再生を復活

- ① 絆と里山の恵みが、子育て負担をやわらげる
- ② エネルギー自給の拡大で化石燃料依存症を緩和
- ③ 自給による安心感が消費と実物投資を拡大
- ④ 空家・農地の再利用と林業再生で若者受入
- ⑤ 現場目線で先入観から脱却

高齢者激増に対応した市場

- **エリアマネジメントサービス**
地域の高齢者の見守りサービス
住み替え促進（高齢者と子育て世代の入替え）
- **病院 / 健康増進関連サービス**
- **グループホーム / 高サ住**
- **霊園・集合墓・散骨その他**
- **世代間をつなぐイベントの開催**
→ **必要なのは自治会の機能の代替**

現役世代減少に対応した市場

- 「ノマド」対応の施設の整備
(カフェ、会議スペース、SOHOなど)
 - 安価な託児施設の整備推進
特に、駅の中の空きスペースへの設置の工夫
 - 高齢富裕層ニーズに徹底的に対応した、新ジャンルのコンビニ開発
 - 子育て中女性向け会合スペース
 - 外国人富裕層向け各種サービス
- 目先の採算より住人増加を優先せよ

ニッポンは元気に高齢化できる

- × 人口減少で日本の国力は低下し、三等国に転落する
 - 欧米先進国では軒並み、日本よりも高齢者が増加
 - 中韓台などアジアを、現役減・高齢者激増が襲う
 - 日本では世界に先駆けて高齢者の増加が止まる
 - 人口減に合わせてまちをコンパクトにすれば賑わいは増す
- × 労働者が減って輸出産業が衰退し、日本の国際収支は赤字になる
 - 機械化で競争力は上昇、賃上げで内需も守れる
 - 人口減少で食糧とエネルギーの自給率は年々上がる
- × 納税者が減り、医療福祉負担が増えて、財政が破綻する
 - 1千兆円の貯金が相続でいずれ高齢者から若者に回る
 - 世界一元気な日本の高齢者は医療費も低い

「里山資本主義」的地域活性化を

① 安さでは勝負せず高品質の商品で外貨獲得:

当地独自の生活文化に支えられた、ハイセンス・少量・高単価の「地域ブランド商品」「生活文化観光」で外から稼ぐ(=「いま」「ここ」にしかないものを売る)。

② お金と遊休資産をもっと地域内でぐるぐる回す:

地域内産の食材、建材、人材の質を上げて地元で使い倒し、未就労女性や障害者を雇用し、時短で「時給」を高め、兼業を奨励し、空き不動産は安く賃貸する。

③ 省エネ・新エネ投資でエネルギー代を大幅削減:

建物の改築・断熱改修を進めて大幅な省エネを実現。建材にはなるべく地元産材を使い、木屑を燃料利用。小水力・風力・地中熱・廃油・廃熱を余さず使う。